

東海地区

大学図書館協議会誌



57

2 0 1 2

東海地区大学図書館協議会

目 次

巻 頭 言	時代を生きる図書館 中京大学図書館長	佐藤 隆	1
講 演 要 旨	大学図書館職員に求められているもの 名古屋大学附属図書館事務部長 カナダの大学図書館事情 British Columbia Electronic Library Network (BC ELN) Project Coordinator ゴードン・コールマン	加藤 信哉	2 7
事 例 報 告	そのとき私たちができたこと — 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災 — 東北大学附属図書館情報サービス課長 (2012.3 まで) 小陳左和子 私の東日本大震災体験 — 図書館の被害と復旧を中心として 郡山女子大学図書館司書係長 和知 剛 もっと使える、最近の NII 学術コンテンツサービス ～ CiNii、KAKEN を中心に～ 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 コンテンツチーム (ポータル担当) 服部 綾乃 新図書館構築にあたっての工夫と今後の中央図書館の展望 愛知学院大学図書館情報センター 足立 祐輔		14 25 37 46
行 事	第 66 回 (2012 年度) 総会・研究集会		51
施 設 紹 介	愛知大学名古屋図書館		58
会 則 等			59
総会当番館一覽			62
加盟館一覽			63
役員館一覽			67
研修会一覽			68
広告主一覽			

時代を生きる図書館

中京大学図書館長

佐藤 隆

本会は「大学図書館協議会」と称し、「図書館」の名称が使用されていますが、各大学は、従来通り「図書館」と称する大学と、「情報センター」と称する大学等があります。このように両名称が存在する背景には、ご承知のとおり「図書館」を取り巻く様々な要因、つまり、図書資料の形態変化、情報利用方法の変化、利用施設の変化などがあると思います。図書館は社会の変化と深く関わっています。

今回、日本の図書館を遡ってみることにします。律令社会であった奈良時代では、内裏の西北に「図書寮」（ずしりょう）が存在していました。中務省（なかつかさ）に属する下級官庁でありまして、宮中の書籍・図書の保管と書写、国史の編纂、諸役所への紙・筆・墨等の文房具の支給を行っていました。文房具の支給業務を別枠におきますと、現在の宮内庁書陵部や国立国会図書館にあたる内容です。図書館長にあたる図書頭の相当官位は、国守とほぼ同じく従五位上でした。四等官の下に属する雑官に、事務官としての史生や、文書事務官としての書生もいました。

同じ奈良時代の『万葉集』には、「書殿」の語が出てきます。

書殿にして餞酒する日の倭歌四首（内1首）

天飛ぶや 鳥にもがもや 都まで 送りまをして 飛び帰るもの (5八七六)
です。九州大宰府の長官であった大伴旅人が、任を終えて都に帰ることとなり、餞別の宴が催され、主客の山上憶良が詠出した和歌です。憶良は上役旅人との別れを惜しみ、空を飛ぶ鳥になってあなた様に随行したいと詠いました。その旅人は、二年前の太宰府に赴任した時、

竜の馬も 今も得てしか あをによし 奈良の都を 行きて来むため (5八〇六)
と天空を飛ぶ馬であるペガサスを登場させ、太宰府と都との往還の世界を詠んでいました。憶良は旅人作を意識していたかもしれません。ペガサスとは、中国文学の『文選』にも登場する架空の動物です。

さて、旅人送る餞宴は、「書殿」で開かれています。書殿とは、諸説ありますが、大宰府の書籍類を収蔵・管理する現在の図書館にあたります。当時の大宰府は、最先端の中国文化が大量に入ってきました。書殿には、律令や戸籍などの資料とともに、様々な仏典や『詩経』『文選』などの中国文学が並び、中国の唐の世界が広がっていました。

その大宰府の書殿と言う図書館にて、酒を飲みながら和歌を披露する餞別の雅宴が開催されたのです。書殿は書籍類を収集、保全管理するだけの空間ではなかったのです。中国では、『世説新語』の竹林の七賢人の故事に代表されるように、酒を飲みながら政談にふけるのが君子のあるべき姿でありました。憶良は中国人のように書殿で酒と言う智水を飲みながら、餞別の雅宴を開いたのです。酒を飲料水に変えれば、現在、各図書館で導入が始まったラーニングモンズのような雰囲気は想像されます。

奈良時代の「書殿」は多目的空間でした。現在の図書空間も良き伝統は残しながら、多様な要求に即応させ、変革する時代を実感しています。

大学図書館職員に求められているもの¹⁾

名古屋大学附属図書館事務部長

加藤 信 哉

1. はじめに

今まで、大学図書館を支配していた「付加価値型大学図書館パラダイム」が崩壊しつつある。「付加価値型大学図書館パラダイム」とは、大学図書館が教育・研究に必要な資料・情報を収集し、整理し、価値を付加して提供するものであり、言い換えると大学図書館が資料や人やサービスの中心であるという考え方である。当然、大学図書館職員に求められているものも大きく変わりつつある。

本日の発表では、大学図書館職員に求められている要件を具体的に説明するのではなく、このテーマについて議論し、検討する素材を提供したい。先行きが見えにくく、羅針盤のない時代にあっては、現状と課題の確認が優先されると考えるからである。今回は、特に大学図書館の機能の見直しを扱った『大学図書館を再定義する』²⁾で展開されている、かなり厳しく刺激的な議論を紹介したい。

2. デジタルネットワーク時代の大学と大学図書館

2.1. 環境の変化と大学図書館の役割

平成 22 年 12 月に発表された科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会の『大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－』（以下「審議のまとめ」という。）では、電子化の進展と学術情報の変化について、「インターネット上の多様な情報資源に対して、学生、教職員が容易にアクセス可能となる等情報環境が変化し、学術情報流通においても主要な海外学術雑誌が電子ジャーナルとして普及」していると指摘している。また、大学を巡る環境変化について、「18 歳人口の減少、国立大学の法人化、国公立

大学の基盤的経費の削減傾向等により、我が国の大学は全体として厳しい環境にあり、大学図書館は、学習、教育、研究活動の変化や新しい動向に対応し、より効率的な支援の展開とともに、利用者の情報リテラシー能力の向上に積極的に関与することが望まれる。」と述べている³⁾。

2.2. 大学図書館の動向

このような環境の変化を受けて、例えば英国の大学図書館では、学生数の増加、学生中心の学習の増大、長時間の開館、図書や雑誌の増加、図書館とコンピュータ・サービスの統合、研究への重点的取組み、IT 利用の増加、図書館における教室・セミナー室の提供、セキュリティの増加のような動向が見られる。

しかも、大学図書館では、教育や研究における研究ベースの学習の増大や問題指向型研究の重視といった変化に対応し、多様なソースからの情報の利用、評価、統合や人々が協力することができる場所の提供や社会的にも学術的にも大学図書館を出会いの場として設計することが求められている⁴⁾。これらの多くはわが国にも当てはまるであろう。

2.3. 大学図書館に求められる機能・役割

審議のまとめに基づいて、現在の大学図書館に求められる機能・役割を整理すると以下ようになる。まず、学習支援及び教育活動への直接的な関与については、「学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要」である。次に、研究活動に即した支援と知の生産への貢献については、「機関りポジトリは、研究者自らが論文等を搭載していくことにより学

術情報流通を改革するとともに、その公開の迅速性を確保」することが求められる。また、コレクション構築と適切なナビゲーションについては、「大学図書館の業務は、電子化された学術情報へのアクセス確保のための外国出版社等との調整や交渉に大きく変化」し、「さらに、既存のコンソーシアム連携により、電子ジャーナルの効率的な整備に向けた体制を強化するため、関係機関等の協力が必要」であろう。

3. 今後の大学と大学図書館

3.1. 今後の大学と大学図書館の課題

以上を前提として、今後の大学と大学図書館について検討してみたい。

吉見俊哉は、「世界の大学教育が推進しようとしているのは個々の発見や開発に向かう知だけではなく、むしろ諸々の矛盾する要求を総合的に結びつけ、安定的な秩序を創出するマネジメントの専門知である」と述べ、「少なくとも必要な知識の入手先という意味では、大学と書店の重要性は同時並行的に低下」し、「グーグルやアップル、フェイスブックといった新たなネット上の知識システムに対し、大学という総体的に古い知識形成の場が何を固有にできるかを明らかにせざるを得ない時」を迎えていると大学の課題を指摘している⁵⁾。

また、『将来の大学図書館サービスを想定する』では、「現在が挑戦の時代であり、一層の効率化のみならず継続的イノベーション、漸進的調整ではない、広範囲にわたる組織的変革の実施、環境の変化と利用者のニーズへの対応が必要である」ことを強調し、「デジタル図書館開発、情報リテラシーのスキルの訓練、オンライン図書館サービス、ラーニング・コモンズ／図書館スペースの変革、機関リポジリ、研究データ管理、情報システム開発等の従来のサービスの継続のみならず、知識管理や仮想学習環境 (Virtual Learning Environment) に対する取り組み等の新しいサービスが不可欠である」と大学図書館の課題について述べている⁶⁾。

3.2. 「大学図書館の再定義」

今後予想される大学図書館のデジタル情報サー

ビスへの移行に対応するために、米国の教育諮問委員会 (Education Advisory Board) は『大学図書館を再定義する：デジタル情報サービスへの移行を成し遂げる』を2011年に発表した。大学図書館の関連団体ではなく、大学の財務担当副学長が、大学図書館についてまとめたものである。冒頭でも述べたが、この報告書では大学図書館の将来についての非常に厳しくかつ刺激的な議論が展開されているので、その一端を紹介する⁷⁾。

最初のスライド (図1) は「私たち自身の死亡記事を書く」で、「図書館専門職自身が伝統的な役割の突然の終焉を予想している」という説明がある。図書館の伝統的な境界に挑戦しようとする大学図書館の副館長のコミュニティである Taiga⁸⁾ の予測を紹介している。2015年には、大学図書館の利用者は情報を求めてどこにでも行き、伝統的な図書館職員は必要がなくなり、スペースは図書のためだけではなくなる。

次のスライド (図2) は「今回は違う」で、「大学図書館の転換はあなたが見ているときに起こりそうだ」という説明があり、図書館黙示録の4人

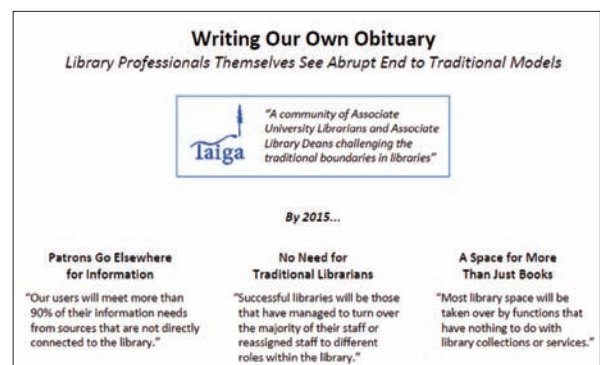


図1 私たち自身の死亡記事を書く



図2 今回は違う

の騎士⁹⁾として①持続不可能な経費、②実行可能な代替手段、③利用の落ち込み、④新しい利用者の要求を挙げている。

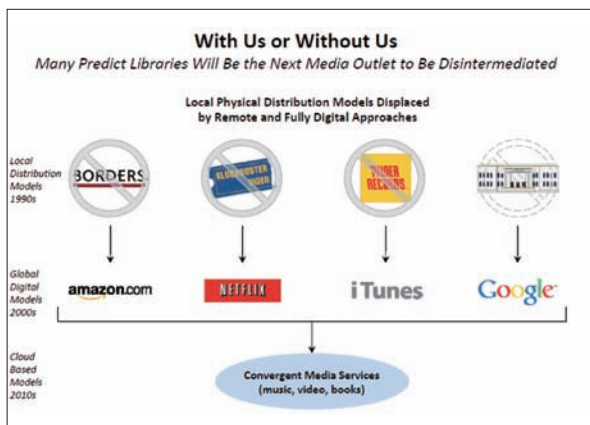


図3 私たちと一緒に私たちが抜きか

三番目のスライド(図3)は、「私たちと一緒に私たちが抜きか」という題で「図書館は中抜き状態となる次のメディア・アウトレットになるだろうと大多数が予測している」説明し、さらに「ローカルな物流モデルは、遠隔で完全にデジタルなアプローチによって取って代わられた」としている。例として、2000年代には、書店チェーンのBordersはamazon.comに、ビデオチェーンのBlockbuster VideoはNetflixに、レコードチェーンのTower RecordsはiTunesに既に取って代われ、図書(館)はGoogleに取って代われつつあり、2010年代のクラウドベースモデルでは、音楽やビデオや図書等のメディアサービスが統合されることが示されている。

四番目のスライド(図4)は「チャンスと目の前の不確実性」と題され、「図書館はこれらを全部すべき?」という副題がある。従来のコアとみなされていた図書と書架は、オンサイトサービス、ウェブサービス、指導サポート、研究サポートで展開される多様なサービスに変貌するというシナリオが示されている。

五番目のスライド(図5)は「二つの時期にまたがる」で、「伝統的な図書館は持続できないが、一方でデジタルサービスはまだゴールデンアワー(中核となる)の準備もできていない。」という

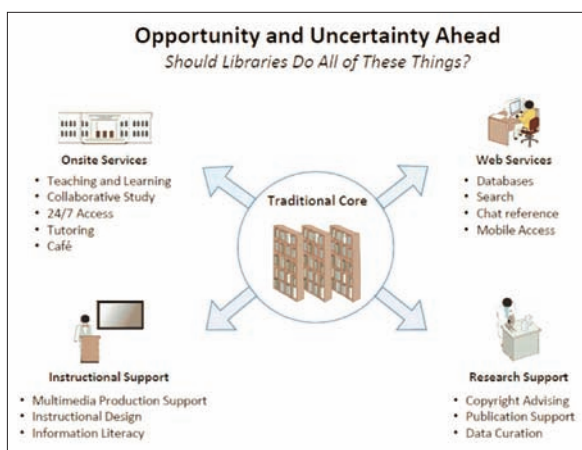


図4 チャンスと目の前の不確実性

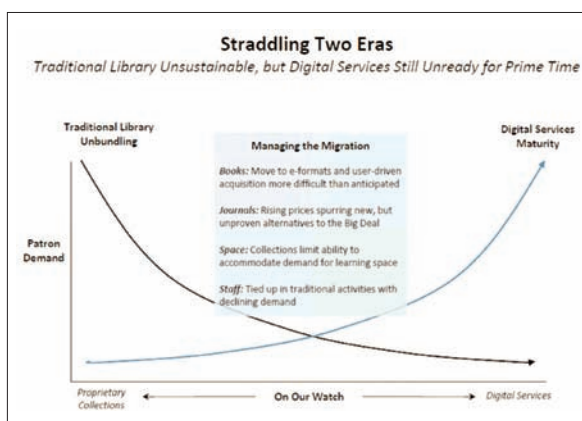


図5 二つの時期にまたがる

「伝統的な図書館からの開放」も「デジタルサービスの成熟」もまだであるという中途半端な状況を示している。従って、デジタルサービスへの移行を管理せざるを得なく、図書については、電子フォーマット及び利用者主導収集への移行は予想された以上に難しい。雑誌については、上昇する費用によって新たなしかし実証されていないビッグディール(パッケージ契約)の代案の作成に駆り立てられている。スペースについては、コレクションが学習スペース要求への対応を制約する。職員については、要求が減っている伝統的な活動に束縛されているとまとめている。

4. 大学図書館職員に求められる資質・能力

さて、度々引用する審議のまとめには、大学図書館職員に求められる資質・能力についての言及がある。まず、大学図書館職員としての専門性を

「伝統的な知識と見識を基礎として、環境の変化に柔軟に対応し、大学における学生の学習や大学が行う教育研究に積極的に関与する専門性」としている。そして、大学図書館業務の諸領域についての個別の専門性について触れている。学習支援における専門性については、「各大学等で行われている教育研究の専門分野の知識や各分野に必要な情報アクセスの在り方の検討」が挙げられている。教育の関与における専門性については、「情報リテラシー教育への直接に関与する新しい方向性、パスマインダーのような教員の協力の下での適切なプログラム開発や教員や学生とコミュニケーションを図りながら教育課程の企画実施に関わることも必要」としている。研究支援における専門性については、「単に電子ジャーナルを提供するだけではなく、研究者が文献に容易にアクセスできるように必要な情報資源を関連付けてナビゲーション機能及びディスカバリー機能を強化する必要性を指摘し、教員と交渉したり、大学の働きかけを行ったりするなど、様々な工夫を凝らして能動的に資料を収集しなければならない」こと、「機関リポジトリ業務では、本来の意味で収集能力を発揮している」こと、「専門分野の図書館職員の重要性を指摘し、大学図書館職員が新たな役割を発揮するためのサービスを開発する等一層の努力が必要」と述べている¹⁰⁾。

4.1. ブレンド型専門職としての図書館職員

こうして見ると、図書館職員も従来型の専門職からの脱却を求められているように思われる。前掲の『将来の大学図書館サービスを想定する』では、「図書館情報学専門職は、取り巻く環境の急激な変換によって非常に多くの課題に直面している。図書館職員はあらゆる専門的なスキルと経験を活用し、それらを様々な事業モデルや戦略的挑戦や実践共同体に適合させることができる「ブレンド型専門職 (blended professional)」となる必要がある」と主張している¹¹⁾。また、Bell と Shank は、図書館業務の伝統的な一連のスキル、情報技術者のハードウェア／ソフトウェアのスキル、教育学習プロセスにテクノロジーを的確に適用でき

る教育デザイナーの能力の三要素が有機的に結びついた大学図書館職員を「ブレンド型図書館職員 (blended librarian)」と命名している¹²⁾。現在の図書館職員が伝統的な図書館技術と情報通信技術の二つのスキルを持っているハイブリッド型とすれば、今後は三番目の教育に関するスキルを持ち、全部で三つのスキルを持つブレンド型図書館職員が求められることになるだろう。

4.2. イノベーションの主体としての図書館職員

大学図書館を取り巻く変化によって、大学図書館職員の業務もいやおうなく変化せざるを得ない状況である。残念ながらモデルとなる事例や指針は見えて来ない。しかし、業務の主体はあくまでも図書館職員である。田原市中央図書館長の豊田高広氏が主張するように、「〔図書館〕が情報や知識を提供するサービス機関であるからには、サービスに付加すべき新たな価値の創造をもっと重視すべき」であり、皆さんが「不断のイノベーションの主役となって激しく変動する外部環境に適応し、危機（例えば従来のサービスの陳腐化）を機会〔チャンス〕に変えること」を期待¹³⁾し、結びとする。

注

1) 本稿は平成 23 年 12 月 15 日に開催された東海地区大学図書館協議会「図書館職員基礎研修 (第 3 回)」で発表した内容の要旨をまとめたものである。

2) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会。

『大学図書館の整備について (審議のまとめ) - 変革する大学にあって求められる大学図書館像 -』
2010 年 12 月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

3) University Leadership Council. Redefining the Academic Library: Managing the Migration to Digital Information Services. 2011.

<http://www.educationadvisoryboard.com/pdf/23634-EAB-Redefining-the-Academic-Library.pdf>

4) Edwards, Brian. Libraries and Learning Resource

- Centres. 2nd ed. Architectural Press, 2009.
- 5) 吉見俊哉. 大学とは何か. 岩波書店, 2011. (岩波新書; 新赤版 1318)
- 6) McKnight, Sue. ed. *Envisioning future academic library services*. Facet Publishing, 2010.
- 7) op. cit. 3) p.7, 8, 15, 20, 21
報告書全体の紹介についてはカレントアウェアネス -ENo.208 2012.01.19 を参照.
<http://current.ndl.go.jp/e1255>
- 8) <https://sites.google.com/a/taiga-forum.org/taiga-forum/>
- 9) 『ヨハネの黙示録』に記される四人の騎士を比喻として使ったもの. 四騎士はそれぞれが, 地上の四分の一の支配, そして剣と飢饉と死・獣により, 地上の人間を殺す権威を与えられているとされる.
- 10) op. cit. 2)
- 11) op. cit. 6)
- 12) Bell, S.J and Shank, J. *The Blended Librarian. College & Research Libraries News*. Vol.65, No.7, July/August 2004, pp.374.
- 13) 図書館・博物館等への指定管理者制度導入に関する調査研究報告書, 三菱総合研究所, 2010. p.53.

カナダの大学図書館事情

British Columbia Electronic Library Network (BC ELN) Project Coordinator

ゴードン・コールマン

1. はじめに

私は司書（ライブラリアン）として British Columbia Electronic Library Network (BC ELN) という、カナダのブリティッシュ・コロンビア州の大学図書館コンソーシアムに勤めています。2011 年 5 月から、一年間のサバティカルをとって、静岡大学附属図書館で客員研究員をしています。日本とは縁があり、1994 年から 1998 年まで日本に住んで、英語の教師として働いていました。その後、2001 年に図書館学の修士号を取得し、2005 年までカナダのバンクーバー市にあるサイモン・フレージャー大学図書館でレファレンス、リエゾン・ライブラリアンとして働きました。現在の職場である BC ELN もサイモン・フレージャー大学図書館の中にあります。

本日のプレゼンテーションでは「カナダの大学図書館事情」をお話したいと思います。カナダ国内にたくさんある大学図書館の一例としてサイモン・フレージャー大学図書館を紹介させていただきます。

2. カナダの大学制度とサイモン・フレージャー大学

まずはカナダと日本の大学の教育システムの違いについて話します。

カナダには約 85 の大学があります。日本の大学数と比べたら圧倒的に少ないですが、日本の大学との大きな違いは大学自体の大きさ、つまり学生数の数にあります。カナダでは、学生数が 5 千から 1 万人ですと、一般的に小さい大学と考えられます。

また、ほぼ全ての大学は公立であるという点が日本の大学との違いです。私立大学はほとんどなく、その規模はとても小さいです。

カナダの大学の新学期は 9 月に始まり、3 学期

制です。多くの学生は 9 月から 4 月までの 2 学期間勉強し 5 月から始まる 3 学期に学費を稼ぐためアルバイトをします。

大学入学試験はなく、高校での成績でどの大学へ進めるか決まるため、日本のような大学受験システムはないです。一方でカナダの大学を卒業することは、日本の大学を卒業することより大変かも知れません。ある一定の成績をとらないと退学になることが少なくありません。

カナダの大学にはパートタイムの学生も多く在籍しています。パートタイムとは、働きながら学校にかよう学生のことです。

新入生の過半数は 18 歳ですが、20 代後半から 40 代の学生も多く在籍しています。

カナダの大学では女性の在籍数が年々増えていきます。現在は 56% が女性です。

次は、サイモン・フレージャー大学についてです。

サイモン・フレージャー大学の名は、世界で初めてロッキー山脈を横断したスコットランド系移民の探検家サイモン・フレージャー（1776-1862）に由来します。大学は 1965 年に創立されました。

学部生は約 2 万 8 千人、大学院生は約 6 千人です。この数には、パートタイムの学生も含まれ、フルタイムの学生だけの数は約 2 万人です。

学部は、人文、教育、理学、ビジネス、環境と情報に分かれています。医学部と法学部がないため、サイモン・フレージャー大学は中規模の大学に分類されています。

3 つのキャンパスがあり、メインキャンパスはバンクーバーの郊外に、サブ・キャンパスの一つはバンクーバー中心街、残りのキャンパスはバンクーバー市内から一時間ほど離れたところにあります。



図1 サイモン・フレーザー大学メインキャンパスから見たバンクーバー市

3. サイモン・フレーザー大学図書館について

では、本題のサイモン・フレーザー大学図書館について話します。

メインキャンパスに本館が、各サブ・キャンパスに分館がそれぞれあります。本館は7階建て、蔵書約130万冊、雑誌6千タイトル、電子ジャーナル6万4千タイトルです。スタッフ数は約150人で、そのうち、司書（ライブラリアン）が40人、図書職員が110人です。

サイモン・フレーザー大学図書館ホームページ

<http://www.lib.sfu.ca/>

図書館の利用時間は平日午前8時から真夜中の零時、土日は午前10時から午後10時まで、休館日は年末の一週間だけです。図書館が夜遅くまで開いているのは、夜の講義を受けるパートタイムの学生のためです。

図2は単純化した図書館の断面図です。

7F - 特別資料室、地図コーナー	事務スペース	
6F - Stacks, 雑誌		学習スペース
5F - Stacks	学習スペース	事務スペース
4F - Stacks	学習スペース	computer lab
3F - 入り口、貸し出しカウンタ、レファレンス・デスク、 Learning Commons, 参考図書		事務スペース
2F - 学習スペース、グループ学習室		computer lab
1F - Older materials		学習スペース

図2 図書館の断面図

(このあと、図書館の写真をしながら建物のバーチャル・ツアーをしました。この記事では全部載せるスペースはありませんので、特に日本とカナダの大学図書館とで違いが大きい点だけを記載します。)

- 図書館は、一般にも公開されていますので誰でも入れます。身分証は必要ありません。
- 貸出カウンターは、レファレンスデスクとは区別されています。貸出カウンターのスタッフも、学生からの簡単な質問には答えますが、より専門的な質問になると、学生をレファレンスデスクへ送ります。
- 貸出期間は学部生は3週間、大学院生は4ヶ月間です。期限内に返却しない場合は、一日約100円の罰金を支払わなければなりません。貸出数に制限はありません。
- 学習スペースを提供するのは、図書館の一つの大事な役割です。サイモン・フレーザー大学図書館での学生用の座席は、およそ1100席が館内にあります。いろいろなスタイルがあり、個人用学習机、グループ・テーブル、カウンター・スタイルの机、ソファなど。一日の来館者数は減り続けていましたが、ここ数年は増えています。この学習スペースが拡大されたためと思われる。
- 数年前に約12のグループ学習室を新設しました。グループ学習室は2時間利用でき、図書館ホームページから予約が可能です。新設当初か



図3 グループ学習室

ら大変人気で予約がとりにくい状況が現在も続いています。

- 図書館内には学生用のコンピューターが約300台あります。さらに55台のノートパソコンもあり、学生を対象に貸出サービスをおこなっています。
- 蔵書に関して、特殊文庫以外は全部開架です。これは「open stacks」と呼ばれています。「closed stacks」はカナダでほとんどありません。
- ジャーナルに関しては10年前まで、所蔵数の増加、特にジャーナル数の増加による書架スペースの限界という問題に直面していました。ジャーナルの電子化により、この問題が解決されました。電子ジャーナルを購入する時、冊子はすぐキャンセルします。現在、製本した古いジャーナルを廃棄することを考えています。
- 図書館利用で最も多いのは、図書館に行くよりもホームページへのアクセスです。そのため、ホームページの重要性は非常に高いです。サイモン・フレーザー大学図書館は400以上のデータベースや電子ジャーナル・コレクションをホームページ上で提供しています。教職員と学生は自宅から閲覧可能です。

4. 司書（ライブラリアン）と図書館職員の職制について

カナダで司書になるためには、図書館学の修士課程をおえなければなりません。司書は大学の教



図4 open stacks

員です。

ほとんどの図書職員は2年の図書テクニシャンと呼ばれる課程を修了しています。司書に比べると権限が少なく責任範囲が限定されています。

日本に来てから、よく聞かれる質問の一つは、大学間で転勤があるのかということです。まずは、大学内でのポストの異動自体が存在しません。同じポジションで同じ仕事を20年続けることは可能です。その利点は、高い専門性が身に付くことです。その欠点は、図書館業務の全体像が見えないことです。

異動や他大学への転出がない代わりに、カナダでは、日本でいう転職によって異動や転出が可能です。つまり他大学図書館への転出も、同じ大学内の違う部署への異動もどちらも転職になります。例えば、退職による欠員が出るとその図書館から求人が出ます。有資格者は学内の司書も含めてだれでも応募できます。

他大学図書館への転職はキャリアアップ希望者にとっては欠かせません。また、司書の中には大学図書館からパブリック図書館、日本でいう県立や市立の図書館に転職する人もいます。

5. キー・サービス

サイモン・フレージャー大学図書館が今、熱心に取り組んでいるサービスを紹介します。

(1) リエゾン・ライブラリアン制度

サイモン・フレージャー大学図書館はリエゾン(またはサブジェクト・ライブラリアン)制度を採用しています。つまり、各学部や学科には専任の司書が一人いるという制度です。

リエゾン・ライブラリアンは自分の担当する学部に関わる主に4つの業務を行っています。

- ① レファレンス (reference)
- ② 図書館データベースを活用するための講習会の開催 (instruction)
- ③ 購入図書を選択 (collections)
- ④ 担当学部との結びつき (liaison)

もう少し詳しく説明します。

- ① レファレンスとは、リサーチにあたって、担

当学部の学生や教員を補助することです。学生たちは事前にアポを取って、担当の司書に会いますが、電子メールか電話を通してリサーチに関する質問をすることも多いです。司書はまた、トピックに関する重要なデータベースやリソースを学生たちに知らせるサブジェクトガイドを準備します。すべてのリエゾン・ライブラリアンは、レファレンス担当者として、一日に2~3時間ほど、レファレンスデスクに立つほか、チャット・レファレンスの仕事もおこないます。

- ② 司書が開催するリサーチ・セミナーは昨年サイモン・フレージャー大学図書館で約1700回行われました。例えば教員がある課題を出す時、その課題に関する情報収集の仕方を教えるよう専任のリエゾン・ライブラリアンに頼みます。すると、リエゾン・ライブラリアンはそのクラスの時間内の一時間ほどを使って講義をします。

- ③ 購入図書の選択について、各学部を代表して、リエゾン・ライブラリアンが、本やデータベースの選択を担当しています。図書館コレクションの予算は、各学部にお金を配分し、リエゾン・ライブラリアンがその予算を管理しています。

- ④ 学部との結びつきについて、リエゾン・ライブラリアンは、担当学部の教員たちと親密なパーソナルリレーションシップを築き上げようと努力しています。リエゾン・ライブラリアンは、学部会議に出席したり、可能な限り教員と打合せを行っています。また、教員にメッセージを送って新しいサービスについて知らせたりします。

リエゾンシステムのゴールは、学生と教員に、自分たちの為だけに働いてくれる司書がいると感じてもらうことです。もし、リサーチに関する質問があったり、図書館サービスに関して何らかの問題が起こったとき、彼らに、図書館内部に親密な関係者がいて、すぐ助けてくれると感じてもらうことです。これは、図書館サービスの質の向上に繋がるのです。

(2) AskAway (チャット・レファレンス)

チャット・レファレンスとは学生が検索中に問題が生じた時、ライブ・チャットにより司書と話すことができるシステムです。このシステムを AskAway と呼んでいます。例えば、ある学生が OPAC を検索しているとします。その学生は、自分が探しているものを見つけることができません。そこで、チャットウィンドウを利用して、司書と話をはじめます。その司書は、学生の質問を見て応対します。AskAway を支えているソフトウェアは、QuestionPoint と呼ばれ、OCLC からライセンスを取得しています。

ブリティッシュ・コロンビア州内の 29 の大学とカレッジの図書館が協力しあい、AskAway を提供しています。つまり学生は自分の大学所属の司書だけではなく、ほかの大学の司書と話すこともある訳です。全部で 100 人以上の司書が、このサービスに関わっています。

AskAway は週 67 時間サービスを提供しています。日曜日から木曜日は午前 10 時から午後 9 時まで、金曜日と土曜日は、朝 11 時から午後 5 時までです。AskAway のサービス中は、少なくとも 2 名、

多いときは 5 名の司書が常時、待機しています。

各図書館が、サイズモデルに従って、各週毎、そのサービスへ関わる時間 (担当する司書) の提供をします。最も小さなカレッジで週に 3 時間、サイモン・フレーザーのような大きな大学では、週に 34 時間、このサービスに携わります。

学生たちは AskAway を気に入っています。その理由は、AskAway が学生たちにとってとても便利で、ネット上で素早く助けてくれるからだと思われます。図書館の司書たちも AskAway を気に入っています。自分は週に数時間のみこのサービスに携われればよく、その一方、学生たちは週に 67 時間も援助を受けられるからです。AskAway の使用状況は、年々増えています。

(3) Learning Commons

第一世代の Learning Commons のコンセプトは学生のためできるだけ多くのコンピューターを提供することと、その技術的なサポートが目標でした。合計で 120 台以上のコンピューターが、レファレンスデスクを囲んで設置され、レファレンスデスクには、コンピューターに関する技術的な

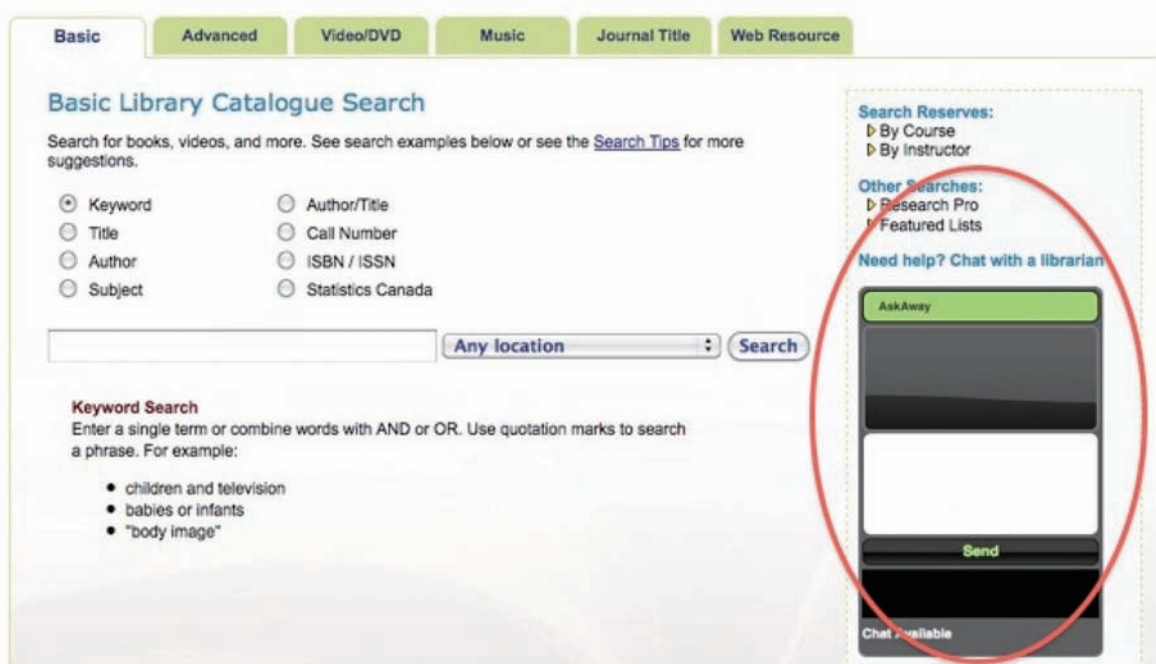


図5 AskAway の画面イメージ

質問に答えられる IT テクニシャンが 1 名待機していました。

現在第二世代へ入り、学生への学習支援のサービスに重きをおくようになってきました。教員によると、多くの学生は良い学生であるためのアカデミック・スキルが欠けていたそうです。例えば、授業中のノートの取り方、レポートの書き方、テストにむけての準備の仕方などが分からないのです。また、盗用といった問題も増えていました。

一方、Student Services 部の中にラーニングサポートグループがあり、そのグループが学習支援のワークショップを行っていました。ですが、Student Services 部はたくさんの役割を担っていたので、学習支援に力を入れることができませんでした。また、ラーニングサポートグループのオフィスはキャンパス内のあるビルの地下にあり、ほとんどの学生がこのグループのサービスについて知りませんでした。図書館側は、ラーニングサポートグループが、図書館内に移動してはどうかと提案しました。この提案は受け入れられ、8名のスタッフとともに、このグループが図書館に所属することになりました。これが、新しい Learning Commons となったわけです。

Learning Commons の重要なサービスは次のとおりです。

- 学習スキル・ワークショップ：このワークショップは 60 分から 90 分間で、図書館内の教室で行っています。トピックは、効率的なレポートの書き方、ノートの取り方、効果的なテキストの使い方、試験の準備方法、タイムマネジメント、などです。Learning Commons の中枢スタッフ、つまりアカデミック・スキルのカウンセラーがワークショップを開催します。カウンセラーは司書ではありません。彼らのほとんどが、教育、修辭学、心理学などの分野での修士号を持っています。
- レポートの書き方に関する個別相談：これは 25 分の「Peer」というチューターによる個人面談です。学生はチューターと話し合い、自分の作成しているレポートについてフィードバックや助言をもらいます。チューターは学生ボラン

ティアです。毎年約 30 ～ 40 名の学生ボランティアを募集します。

サイモン・フレーザー大学では、図書館の Learning Commons を通して重要な学習支援を提供しています。学生は Learning Commons で、とても役に立つ支援や補助を受けています。Learning Commons の機能を通して、図書館は大学教育における重要な役割を果たしていると言えます。

(4) 電子コレクションの創造

カナダの大学では、オンラインで利用する電子コレクションが以前に増して冊子のリソースより重要になってきています。資料予算の 3 分の 2 がデータベースや電子ジャーナルに使われています。今後数年で、書籍購入の多くは、電子ブックにとって変わられるだろうと考えられています。これらの電子コレクションは、全部利用者の自宅からも閲覧可能です。

電子ジャーナルなどの電子資料の契約・購入に加えて、図書館は、新しいタイプの電子コレクションを創造する新しい役割も担っています。

- 機関リポジトリ：サイモン・フレーザー大学図書館のリポジトリでは、博士論文と修士論文を提供しています。
- 古い資料のデジタル化：例えば、サイモン・フレーザー大学図書館は、100 年前のカナダの新聞をデジタル化しました。
- 電子ジャーナルを編集・出版するためのソフトウェアの開発：図書館が開発した Open Journal Systems (OJS) というソフトウェアを通して、いくつかの電子ジャーナルを提供しています。

6. まとめ：カナダの大学図書館の将来

15 年前、図書館の役割は本や雑誌を所蔵する場所でした。利用者は図書館へ足を運ばなければなりませんでしたが。現在は、四つの役割が生まれていると私は思っています。

- ① 学生の学習やサポートの場 (Learning Commons のサービス、グループ学習室、ノート PC の貸出サービス、など)
- ② オンライン検索の指導 (データベースを活

Welcome to Summit, Simon Fraser University's Institutional Repository



Summit is the Simon Fraser University institutional repository, a place to bring together selected scholarship and research of SFU and to promote this work to the

Search our collections

Browse our collections
ACTION for Health
Action for Health Cross Thematic Materials
ACTION for Health Project Documentation
Action for Health Theme 1
Action for Health Theme 2 [more](#)

Recent items
Situating Truth Commissions' Historical Narratives in Context: Chile and Peru
The dining experience of residents with dementia in long-term care facilities
Spiritual sites, ethnic significance and

図6 機関リポジトリ

- 用するための講習会の開催)
- ③ オンライン資料とサービスの提供 (AskAway チャット・レファレンス、自宅からアクセス可能なデータベースや電子ジャーナル、など)
- ④ 出版者の役割 (電子コレクションの創造、電子ジャーナルの編集・出版機能の提供)
- まとめると、カナダの大学図書館の役割は変化しています。将来的に図書館の役割はこの四つの中のどれかだろうと思います。

そのとき私たちができたこと — 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災 —

東北大学附属図書館情報サービス課長 (2012.3 まで)

小 陳 左和子

1. はじめに

2011 (平成 23) 年 3 月 11 日 (金) 14 時 46 分に発生した東日本大震災により、東北大学附属図書館 (以下「当館」という。) も施設や書架、蔵書等に被害を受け、しばらくの間、図書館サービスの休止・縮小を余儀なくされた。本日は、地震発生当日やその後、私たちが経験したこと、そこから考えたことについて報告する。

2. 東北大学附属図書館について

(1) 立地

東北大学 (以下「本学」という。) は、宮城県仙台市青葉区内に 5 つのキャンパスが点在している。今回の本震では震度 6 弱を観測した。津波で浸水した沿岸部からは直線距離で 15km 以上離れており、津波被害からは免れた。それぞれのキャンパスに図書館・図書室を設置しており、各館・室の被災状況は立地条件や建物の構造などによって異なるが、今回は附属図書館本館 (以下「本館」という。) の状況を中心とした内容とすることをあらかじめお断りしておく。

(2) これまでの宮城県の地震

表 1 に示すように、もともと宮城県やその周辺は、地震大国と言われている日本の中でも地震が多い地域のひとつとされている。一人の人間が震度 5 や 6 の地震を 2 度 3 度経験するという地域はそうそうないのではないかと。古くは、平安時代の歴史書『日本三代実録』(本館も所蔵) に記録されている 869 年の貞観地震をはじめとして、慶長 (1611 年)、明治 (1896 年)、昭和 (1933 年) にそれぞれ三陸地震が発生し、いずれも大津波を起こしている。過去の災害について研究・検証するこ

とは今後の防災・減災にとって重要であり、だからこそ経験した私たちが記録に残し広く伝え、また、記録を収集して残していく責務があると思っている。

21 世紀に入ってから、震度 4 を超える地震は 2～3 年に一度は発生している。私が本学に着任したのは 2009 年だが、その後の短い間でも、蔵書が書架から数十冊落下する程度の地震を何度か経験している。私自身は地震をほとんど経験しない富山県の出身で、地震に対する心構えができていなかったが、宮城県に暮らし働く職員の心の中には、「近いうちに大地震がやって来るに違いない」との覚悟があったのではないだろうか。

表 1 これまでの主な地震 (宮城県)

869.7.9	貞観地震・津波	M8.3 以上
⋮	⋮	⋮
1611.12.2	慶長三陸地震・津波	M8.1 震度 5
⋮	⋮	⋮
1978.6.12	宮城県沖地震	M7.4 震度 5
⋮	⋮	⋮
2003.5.26	三陸南地震	M7.0 震度 5 弱
2003.7.26	宮城県北部地震	M6.2 震度 4
2005.8.16	宮城地震	M7.2 震度 4
2008.6.14	岩手・宮城内陸地震	M7.2 震度 5 弱
2010.6.13	福島県沖	M6.2 震度 4
2011.3.9	三陸沖	M7.3 震度 3
2011.3.11	東日本大震災	M9.0 震度 6 弱
2011.4.7	宮城県沖	M7.4 震度 6 弱

※震度は仙台市青葉区

(3) 建物の構成

本館は、図 1 のように、1973 年に新築開館した 1 号館と、1989 年に増築した 2 号館とで構成さ

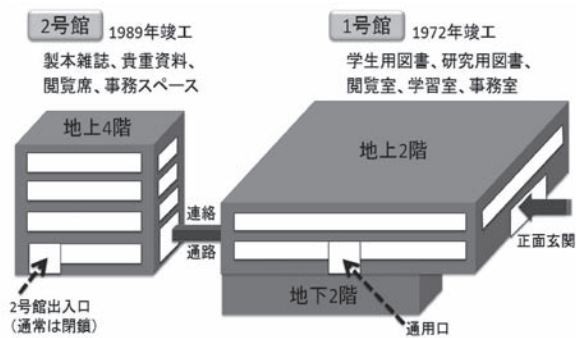


図1 本館の施設構成

れ、二つの建物は連絡通路で結ばれている。

1号館は地上2階・地下2階建てで、1,000㎡弱の吹き抜けのメインホール（写真1）を中央に据えて、その左右両側の2階に学生閲覧室と研究閲覧室をそれぞれ配し、合計約20万冊の開架図書を配架している。地下書庫には140万冊の研究用図書を配架している。1階の入退館ゲートの手前には、350席弱の自習机を設置する自由閲覧室もある。写真奥の窓の向こう側に配する2号館は地上4階建てで、製本雑誌約40万冊を収容する書架が建物の大半を占め、貴重書庫も置いている。

通常、職員の大半は1号館で執務をしており、2号館に常駐している職員は3名のみである。何か起きたときには、2号館へも助けに行く必要がある。3月11日は私も2号館の4階まで行って、利用者に「避難してください」と声を掛けて回った。普段は4階まで階段を歩いて上るだけでも息切れするのに、このときは階段を2段飛びで駆け上がって走り回ることができたのが、今でも不思議である。



写真1 1号館1階メインホール

(4) 耐震補強工事

1号館は、補正予算により2008年度に耐震補強工事を実施した。FRP(ガラス繊維強化プラスチック)ブロックによる耐震壁(写真2)や、鋼管ブレース(写真3)を新設したほか、既設の壁や柱の補強も行った。閲覧室を分断する壁や、外光を遮る太い鋼管が設置され、使い勝手や見栄えの面からは決して評判が良いとは言えなかったが、もしこの工事がなされていなかったら、今回の建物の被害はもっと大きく、人的被害も発生していたかもしれない。



写真2 FRP ブロック耐震壁



写真3 鋼管ブレース

(5) 通常の開館・利用状況

開館時間は、平日は8時から22時まで、休日は10時から22時まで(試験期は8時から)、年間休館日は13日であり、有人の年間開館時間数としては国立大学でトップである。しかし、早朝・夜間及び休日は、学生を中心とした非常勤職員4名により運用しているため、常勤職員が不在の時の災害対策についてもしっかり考えておく必要がある。マニュアルの整備はもちろんのこと、夜間や

休日の避難訓練の必要性も感じている。

年間入館者数は約68万人、日中の同時在館者数は通常期で300人、試験期には700～800人にもなるが、地震発生時は春の休業期だったため、館内にいたのは200人を下回る程度だと思われる。また、地震発生時に本館内で執務していた職員は、60名弱であった。

3. 地震当日の状況

3月11日の14時46分、ドーンと大きな揺れがきて1分後に一瞬おさまったかと思ったらまた強くなり、さらに約2分間揺れが続いた。ほどなくして照明が消えて非常灯が点灯し、停電したことを悟った。私は事務室にいて、揺れている間はミーティングテーブルの下にもぐっていた。揺さぶられてギシギシ音を立てる事務室内の什器類や散乱する書籍・書類を目の当たりにしながら、壁を隔てた閲覧室がいったいどうなっているのか想像もつかなかった。揺れが収まると同時に閲覧室へ飛び出していった時には既に、カウンターや閲覧室内にいた職員が利用者を避難誘導しようとしているところだった。館内は、落下した図書による埃や天井・壁からの粉塵が舞い、もやがかかったようになっていた。

後日、利用者対応をしていた職員に対して、どのような行動を取ったか、一人一人にヒアリングし記録に残したが、職員本人たち以外にも「証言」が残されていた。発生時に本館2階の閲覧室にいたある学生のTwitterで、震災後半月近く経ってから回顧するように書かれたものである。

「東北大の図書館の女性スタッフが、すぐに『机に隠れて』と指示を出して、どんなに揺れても、本が落ちて、電気が切れても、ずーっと『落ち着いてください』と叫び続けてくれた。自分だって怖いはずなのに。ぎりぎり冷静でいられたのはあの人のおかげだと思う (^_^)」

その時たまたま、返却図書の配架のために2階の閲覧室にいた職員が、自らの咄嗟の判断によりこのような行動をとってくれたのであった。今

回、人的被害もなくパニックにもならなかったのは、こうした各職員のおかげといっても過言ではなく、本当に感謝している。

大半の利用者は、不安な面持ちながらも職員の指示に従い、比較的冷静に避難を行っていた。しかし中には、職員が呼びかけるまで閲覧席に座って本を広げたまま動かなかった人、館外へ出るべきなのか、またどちらの方向へ行けばいいか迷って右往左往していた人、腰が抜けたようになって職員が支えなければ歩けなかった人などもいた。

避難した利用者と職員（合計約240名）は正面玄関前（写真4）に集まったが、館内に荷物を置いたままの利用者も多かった。そこで、利用者サービス担当の係長がカウンターから持ち出した拡声器を用いて、「まず、1Fの閲覧室の手前側にいた人、集合してください。」などと呼びかけて集まってもらった。大きな余震が頻繁に続いていたため、危険な時にはすぐに外へ出られるように、一度に館内へ入る人数を最大10名程度に抑え、職員が1名ずつ引率して交代で荷物を取りに入った。余震の合間を縫ってのことだったので、時間は要したが、15時40分頃までには全員が荷物を取り出した。さらに職員数人で館内の各エリアが無くなったことを確認して回り、持ち主が不在で残されていた荷物を6名分ほど運び出した。

16時前だったので、今ならまだ明るいうちに動き出せると考え、拡声器で利用者に帰宅するように促した。職員についても、まずは通勤に時間がかかる地域の者、幼児や要介護の家族がいる者に帰宅指示を出した。しかし、利用者たちはなかなか



写真4 本館の正面玄関

か動き出そうとしなかった。キャンパスから街や駅へ出るには広瀬川を渡らなければならないが橋は通行できるのか、街は火の海になっていないか、利用者や職員の家族や自宅は無事なのか、といった情報が得られない中で、友人同士あるいは見知らぬ者同士でも誰かと一緒にいたかったから、独りになるのが不安だったからということではなかろうか。そのうち、雪が降り始めた。天を仰ぎ、舞い降りてくるぼたん雪が顔に当たるのを感じながら、「これからいったいどうなるのだろうか」とため息をついたことを覚えている。

残った職員で、土日は出勤しないことと月曜は可能な限り出勤することを確認して解散した。正面玄関に「14日(月)まで臨時休館します」と貼り紙をして施錠したのが16時30分頃だった。

実はこの日、災害時に統括指揮を執ることになっている館長、事務部長及び総務課長は、東京大学附属図書館での国立大学図書館協会臨時理事会へ出席しており不在、帰仙できたのは3日後(3月14日)の午後であった。それまでは情報管理課長と情報サービス課長である私とで話し合いながら対応したが、職員たちが果敢に行動してくれたのがとにかくありがたかった。

携帯電話は通話・メールともにほぼ不通だったが、私物のイー・モバイルWiFiルーターは通信可能だったため、ノートパソコンとともに唯一の連絡手段として使用することができた。それでも、電気がいつ復旧するかまったくわからない状況だったので、できるだけバッテリーを温存するために事務部長や実家等との必要最小限の通信のみに使用した。

4. 図書館及び大学の被害状況

(1) 図書館(本館)の被害

地震発生時に館内にいた利用者・職員に怪我等の被害が全くなかったのは、本当に不幸中の幸いであった。

本館では、構造上は問題がないことが確認されたが、建物の柱・壁や天井に亀裂が多数入り、コンクリートの破片が落下した。空調機のパイプが破損し、冷暖房の運転が不能となり、室内への漏

水も発生した。地下書庫と地上階を結ぶエレベーターが損壊して使用不能となった。

また、閲覧室の大型の窓枠が歪み、隙間が大きく空いたまま開閉不能となったため、サービス再開後もブルーシートで覆ったまま立入禁止区域にしていた(写真5)。修理が完了したのは、4か月後の7月3日であった。施設・設備の修繕は、学内での予算確保の問題もあったが、発注したとしても建築資材や作業人員の確保が困難だったため、着手に時間を要した。街の中でも、補修工事のためにビルの外壁にシートを被せているのをよく見かけるようになったのは、やはり7月頃からだったように思う。

しかし、1年経過した今でも、状況はそれほど大きくは変わっておらず、施設や設備は必要最低限の箇所のみ修繕しただけである。これから手がけるべき工事等は非常に多い。

書架や蔵書の被害については、後で復旧状況とともに説明する。

(2) 大学の被害状況

学内での人的被害はなかったが、誠に残念なことに、学外での津波被災により3名の学生が亡くなった。

大学全体では、「危険」と判定された建物が28棟(4.7%)、「要注意」が48棟(8.2%)、「安全」が521棟(87.1%)で、448億円強の損害が出た。

研究機器の被害も352億円強と多く、また、振動や停電により多くの貴重な実験・研究材料が失われた。



写真5 窓枠損傷による立入禁止区域

5. 復旧作業・サービス再開の経過

時系列でこれまでの経過をたどってみる。

【3/14(月)・15(火)】

週明けの14日(月)、全職員のうち半数強の35名が集まった。ガソリンを入手するにはガソリンスタンドの長い行列につき何時間も待たなければならず、自家用車で通勤できた者はごくわずかであった。公共交通機関もすべて停止しており、徒歩や自転車で通常の何倍もの時間をかけて来た者が大半であった。しかしやっとの思いで出勤しても、電気・水・ガスのライフラインがすべて停止しており、建物の安全性も確認できておらず、しかも余震が続いている中で、できることは限られていた。そういった中で無理に作業しようとしても二次災害を招きかねないので、この二日間は館内各エリアの状況確認・写真撮影や身の回りの片付けにとどめ、午前で解散した。

このときに撮影した写真を紹介する。

本館で書架から落下した蔵書(写真6)の推定冊数は90万冊弱で、配架資料全225万冊のうち4割近くを数え、その一部は破損により修復・買替が必要となった。

スチール書架の大半は上部を連結していたため、転倒を免れたものの歪みが生じたところも多数あった。特に、重い製本雑誌を配架していた書



写真6 学生用開架図書書架



写真7 製本雑誌書架



写真8 貴重書展示室のキャビネット

架(写真7)は、全面的に歪みの補正やビスの締め直しが必要となった。また、固定していなかったキャビネット類は、設置階に関わらず軒並み激しく転倒した(写真8)。

貴重書庫でも、固定していなかった木製書棚が倒れ、扉のガラスが割れた(写真9)。凶書の中にガラスの破片が混入していないか、一冊一冊確認しているが、まだ終了していない。貴重書庫には利用者を入庫させずに職員が出納するという事情もあり、作業の優先度を下げている。貴重書庫の書架だけには落下防止バーを設置していたが、比較的少ないとはいえ洋装本が落下した(写真10)。和装本は軽いため落下しにくく、帙で守られているものも多いため、落ちたとしてもあまり破損しないが、洋装本は落下したときの破損の度合いが大きい。12月に専門業者へ貴重図書を修復に出したが、和装本50冊に対して洋装本250冊と、5倍の差が出ている。

つい先日（2012年2月）、ようやくこの書棚を買い替えることができたが、今後は壁に固定し、ガラスに飛散防止フィルムを貼ることとしている。



写真9 貴重図書（和装本）



写真10 貴重図書（洋装本）

【3/15（火）】

この日の午後、大学本部の施設部により建物の応急危険度判定がなされ、「建築物使用可能」との紙が玄関に貼られた（写真11）。ちなみに、「要注意」の場合は黄色い紙が、「危険」の場合は赤い紙が貼られる。図書館の中でも、医学分館には黄色い紙が貼られた。

さらに、待望の電気が復旧し、これでようやく翌日から本格的な復旧作業に着手できることとなった。また、翌16日（水）には水道も復旧し、トイレや作業後の手洗いに不自由しなくなった。

【3/16（水）～】

落下した90万冊近くの資料を一気に片付けることは不可能なため、優先順位をつけて作業し、

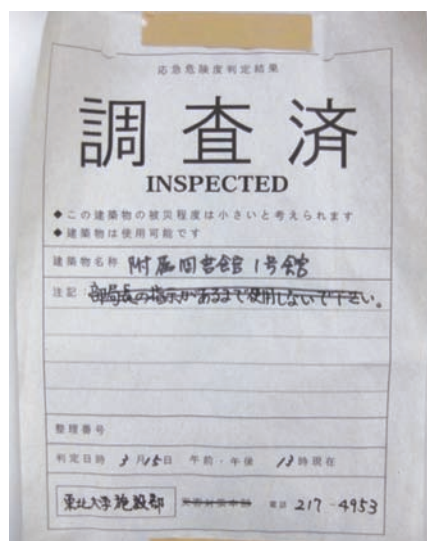


写真11 建物の応急危険度判定結果

可能なエリアから順次開館していくこととした。まずは学生用の開架図書を利用できるようにしたいと考えたことに加え、余震が発生しても作業者が最も避難しやすい場所という事情により、学生閲覧室の整理に着手した（写真12）。落下図書の整理は、まずは通路や作業空間を確保するために書架の周りに積み上げ、そこから書架へ請求記号順に並べていくという手順にした。

この作業はその後何日間も続くことになるが、職員の中には、何時間もかけて通勤してくる者もいる。街では、開いている店自体が少ない上に、品物が入荷できずに数時間だけ開ける店もあり、食料や日用品を入手するには、日中何時間も並ぶ必要があった。乳幼児や要介護家族を抱える者



写真12 学生閲覧室での復旧作業

や、実家・親類と何日も連絡が取れず、週末に乏しいガソリンを使って探しに行く職員もいた。作業中につけていたラジオからは、沿岸部や避難所の状況を報じるニュースや、未だ連絡が取れない親族や知人に呼びかける尋ね人のコーナーが流れ、複雑な思いで聴いていた。そのような状況下で、ひたすら本を書架に並べるというような「のんきなこと」をやっているのか、と思った職員も多かったはずである。

それでも、学生たちが時折、施錠した正面玄関のガラスドア越しに図書館の中を覗いており、それに気づくたびに鍵を開けて出て行くと、「いつから開館できそうですか?」「何かお手伝いできることはありませんか?」などと声をかけてくれた。そのような、居場所を求め図書館をも頼りにしてくれている利用者の姿を見て、自分たちが今やるべきことは何か、自分たちが今この本を一冊一冊片付けなければ永遠に開館できないのではないかと自問自答しながら作業を続けた。

県や市の図書館では、図書館員である前に自治体の職員であり、図書館の復旧は後回しで、避難所や被災地対応を担当するケースも多かったと聞く。大学図書館でも、特に小規模なところでは、まずは学生の安否確認や連絡対応を担当していた。それに比べて本学は、図書館職員は自館の復旧に専念させてもらえて、恵まれていた。

【3 / 22 (火) ~】

安全を第一に考えて、借りている本を無理に返しに来なくてよい、卒業する人も落ち着いてから郵送してもらえばいい、と Web や Twitter 等で呼びかけていたが、返したいという利用者也出始めていたため、22日(火)から通用口で返却の受付を開始した。

25日(金)に予定されていた大学の学位記授与式(卒業式)は中止となった。その日に図書を返却しに来た4年生に「式が中止になって残念だったね。ご卒業おめでとう。」と話しかけたところ、「この状況で仙台を去るのは後ろ髪を引かれる思いなのですが…。図書館にはたいへんお世話になりました。自分は手伝えませんが復旧がんばって

ください。」との励ましの言葉が返ってきて、思わず目頭が熱くなった。

25日(金)には、大学の年間授業スケジュールが決定し、5月の連休明けから1か月遅れで新学期が始まることとなった。それに合わせて、図書館のサービススケジュールも検討していった。

29日(火)には、1号館の開架エリアの配架が完了し、翌30日(水)には、1号館の地下書庫と2号館の製本雑誌書架の作業に着手した。二か所に分散させたのは、余震発生時に地下から迅速に避難するには作業人員を数名にとどめておく方がよいと判断したためである。

【3 / 31 (木) ~】

製本雑誌の作業に着手してまもなく、職員たちが音を上げ始めた。それまでの一般図書と違い、一冊一冊が重くて大きく、落下数も多く膝まで浸かるほどで、作業は難航した。そこに救いの手がさしのべられた。

本学の学生が、自発的に学内でボランティア組織を設立した。彼/彼女らは被災地や避難所などへも支援に行くが、図書館の作業もぜひ手伝いたいとの申し出があり、31日(木)から来てもらうことにした。1日25~50人が毎日集まってくれて、一旦活動を休止する6月上旬までに、延べ1,000人近い学生が献身的に作業をしてくれた(写真13)。

この組織の名称は「東北大学地域復興プロジェクト“HARU”」で、東北の厳しい冬の寒さに耐えていれば季節が巡り“春”がやってくるのと同じ



写真13 学生ボランティアによる作業

ように、どんなに辛いこと・悲しいことがあっても夢や希望や幸せは必ず東北の地にやってくる、という願いを込めて命名されたとのことである。また、数あるボランティア活動の中でなぜ図書館を選んだか尋ねたところ、「いつも使っている図書館が一日も早く開館してほしいから」「この大学を復旧・復興できるのは自分たちだと思ったから」との答えが返ってきた。

4月に入る頃にはガソリンスタンドの前に給油待ちの車の列がなくなり、商店も品揃えはまだ限定されていたものの再開し始め、街は少しずつ回復してきたと思った矢先のこと、私たちが少し気を緩めたのを見透かしたかのように、4月7日(木)23時32分、M7.4の地震が発生した。

配架が完了していた学生閲覧室の図書が7万冊ほど落下した。仙台市青葉区の震度は3月11日と同じ6弱だったが、振動時間が短かったため、被害の規模も比較的少なかったと思われる。開館時間中でなかったのが幸いであり、作業にも慣れていたので翌日1日で復旧できたが、精神的には落胆の度合いが大きかった。これを期に、書籍を棚の奥の方に配置し、配架の終了した書架に紐を張り巡らせた(写真14)。その後の余震では落下していないが、そのままでは使いづらいため、数か月後に外した。



写真14 紐を張った学生閲覧室の書架

【4/11(月)～】

4月11日(月)には、エントランスホールのみ開室した。資料返却受付、新聞閲覧、ラウンジ・自動販売機・トイレの使用と、極めて限定的な

サービスではあったが、1か月ぶりに利用者が館内へ入ってきたのを見て、感無量であった。

この頃に館内のガスがようやく復旧した。また、津波被害で復旧には1年以上かかるのではないと言われていた仙台空港が暫定的に再開し、東北新幹線や仙台市地下鉄も29日(金)には全線開通と、日本の技術力や援助の力は素晴らしいと感じ、図書館も負けてはいられないと思った。

25日(月)には、地下書庫を除く1号館を平日9時～17時に限定して開館し、開架図書や閲覧席、パソコンの利用を可能とし、学外からのILL依頼も再開した。そしてHARUと職員との協働により、地下書庫は4月25日(月)に、製本雑誌書架は5月2日(月)に配架作業を終えることができた。

【5/6(金)～】

5月6日(金)には学部毎の入学式が挙行され、9日(月)からは授業が開始された。図書館もそれに合わせて、平日8時～20時/休日10時～20時の時間外(短縮)開館を行った。夜間と休日は、非常勤職員に加えて、常勤職員が交代で1名ずつ待機する体制を取った。

16日(月)からは、部分的に危険な箇所は立入禁止にしたものの、地下書庫と2号館を含む全館を開館した。

【6月】

6月1日(水)からは、通常どおり平日・休日ともに22時まで開館、時間外は非常勤職員のみでの運用体制に戻した。

2日(木)・3日(金)の2日間、東京のマイクロ資料業者数社から専門家の方々が8名、ボランティアとして来館された。地下書庫に置いていたキャビネットが傾倒して大半が損壊し(写真15)、収納していたマイクロフィッシュのシート数万枚が散乱して途方に暮れていたところ、saveMLAKの仲介によるありがたい申し出であった。キャビネットの損傷状況確認とシートの整理を行ってもらったが、当館からは最初に簡単に説明しただけで、あとは自ら段取りを組んでテキパキと作業が



写真 15 マイクロ資料キャビネット



写真 17 利用者からのメッセージ



写真 16 ボランティアによる作業

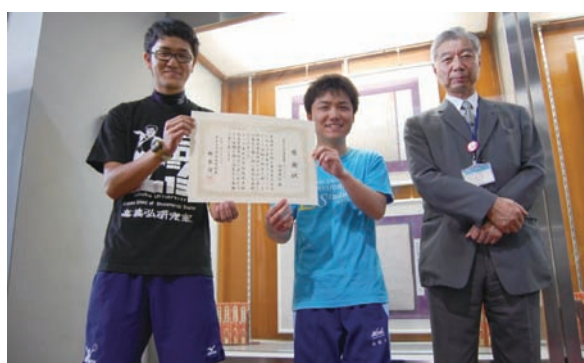


写真 18 HARU への感謝状贈呈

進められたのはさすが専門家集団だと感じた（写真 16）。シートを完全に配列し直すにはまだまだ膨大な時間と人員を要するが、今後の作業の道筋をつけてもらえただけでも非常に助かった。

実は、当館は 2011 年 6 月 14 日（火）で図書館創立百周年を迎えた。本来ならばその頃に記念式典を挙げる所、秋に延期せざるを得なかったが、14 日当日は、館内でささやかなイベントを実施した。「100 回目の誕生日に贈る図書館へのメッセージ」と題して、図書館に対するお祝いメッセージカードを書いた来館者に図書館グッズを進呈した。全学で 500 枚を超える温かいメッセージが寄せられ、図書館を愛してくれている利用者に、職員一同感激した（写真 17）。また、この日には、図書館長から HARU へ感謝状を贈呈した（写真 18）。

【7月】

7 月 15 日（金）には、今年度第 1 回の避難訓練を実施した。それまでは年 1 回だったが、職員からの要望も多く、今後は年 4 回行うこととし、既に 11 月・2 月にも実施した。

26 日（火）にはようやく空調設備の修理が終わり、待望の冷房運転を開始できた。翌 27 日（水）・28 日（木）のオープンキャンパスにぎりぎり間に合わせる事ができ、本館へは 5,710 名の高校生が見学を訪れた。

【8月以降】

HARU は学業等の都合で 6 月中旬から活動を休止していたが、9 月に再始動し、図書館へも 10 月 31 日（月）から、月 2～4 回のペースで数名ずつ来てくれて、破損本の簡易修復等を手伝ってくれている。

平成 23 年度第三次補正予算の成立が 11 月 21 日

(月)にずれこんだ影響で、本格的な復旧工事の大半は12月半ばからの開始となった。施設・設備の改修、書架の完全補修、什器類の買換、破損資料の修復などが残されており、これらのスケジュールをパズルのように組み合わせて進めていき、すべて完了するのは2012年末となる予定である。

6. 全国からのご支援

今回の震災では、図書館間のネットワーク、人とのつながりのありがたさを改めて実感した。

公式には、国立・私立の大学図書館協会等がいち早く動いてくださった。多数の大学図書館が、被災大学の教職員・学生に対して利用を積極的に受け入れてくださり、本学でも500名近い学生・教職員が全国の国立大学図書館にお世話になった。また、東京大学附属図書館及び京都大学附属図書館のご尽力により、3月中旬から5月中旬の間、被災地の研究者が両大学の契約電子ジャーナルを無料で利用できる配慮がなされた。

非公式にも、当館や私たち職員に宛てて、全国の大学等機関や個人からお見舞の品々や義捐金が届けられた(写真19)。食料品は、商店が閉まり入手困難だった時期に、作業を行う職員の昼食やおやつとして充てることができ、使い捨てカイロやマスクなどの用品も作業に大いに役立った。さらに、献身的に作業をしてくれる HARU の学生たちに少しでも感謝の気持ちを表したいと考え、休憩時間のおやつや作業終了後のお礼の品として活用させてもらった。このときには必ず「〇〇大学図書館の職員の方から、東北大の学生ボラ



写真19 全国からの支援物資

ンティアのみなさんへの差し入れです。」と書いた紙を置いておき、図書館がネットワークで結びついていることを知ってもらうようにした。

たくさん励ましの言葉もいただき、これらのご厚意にどれだけ勇気づけられ、前へ進む意欲をもたらしてくれたか計り知れない。

7. 今後に向けて今考えること

あの日、本当はどう行動すれば一番よかったのか、この一年間何度も繰り返し考えてきたし、夢にも出てきた。そして、「平日の常勤職員勤務時間内だったが、もしも夜間・休日開館中だったら…」 「昼間で外も明るかったが、もしも日没後で帰宅困難者続出だったら…」 「大学の休業期で在館者は授業期の6割程度だったが、もしも試験期間中の満席状態で出口に殺到していたら…」 「火災等が発生せず避難経路が確保できていたが、もしも通常の避難経路が塞がっていたら…」 「寒かったけれどこれから春に向かう季節だったが、もしも真冬だったら…」 ということもずっと考えてきた。私からはアドバイスや教訓のような話ではできないし、そもそも一つとして同じ条件の図書館は存在しないので、やはり自分のことは自分で考えなければならぬが、今考えていることを少し話したい。

最も大事なことは、人的被害を出さないこと、そのためには建物の安全性を確保しておくのは大前提だが、図書館の場合とはとにかく書架を転倒させないことが最優先である。一冊たりとも本を落としてはならないと考えるのは、現実的とは言えず、一定以上の地震であれば本が落下するのやむを得ないと思われる。それよりも、書架が本を抱え込んだまま閲覧室一面に将棋倒しになった図書館のような事例を、今後繰り返さないための対策が重要であろう。

とはいえ、本の落下を最小限に抑える方策も併せて考える必要がある。各メーカーから、書架に設置する傾斜棚板、落下防止バー、滑り止めシート・テープなどが発売されているが、新製品も多いため、今回のようなクラスの地震に本当に性能を発揮できるのか、平常期の使い勝手や耐久性・安全性に問題はないかなど、実地での検証を重ね

て改良を進めてほしいと願う。

防災用品の整備、避難経路・非常口の整備及び利用者・職員への周知も大事である。本学では、ヘルメットは以前から職員全員に配付されており、防災訓練でも着用していたため、地震当日やその後の復旧作業でも抵抗なく使用した。カウンターに常備していた拡声器、懐中電灯、手回し充電式ラジオは、館内から持ち出した地震当日も、その後の復旧作業時にも非常に役立った。特に拡声器は、館内のいろいろな場所で必要になるため、震災後に壁掛け型を数台設置した。

一方で、本館を避難所にするという考えはないため、非常食、水、毛布などは常備していない。蔵書等の落下による危険性が懸念されるし、避難所指定されていないところには、なかなか情報や物資が届かないためである。しかし、やむを得ず館内で一夜を明かさなければならない可能性もないとは言えないため、ここは迷うところである。

防災訓練の内容や、防災マニュアルについてはまだまだ整備の途中であり検討を要する。マニュアルにしても、一度作成したからと安心するのではなく、常に更新・見直しが必要である。

そして、訓練やマニュアルはもちろん大事で、それらが基本になるのは間違いないが、今回、職員一人一人のその場での判断と行動がいかに重要かということを改めて思い知らされた。

実は、3月11日の2日前の9日（水）11時45分、震度3の地震が発生している。11日と同様に日中の開館時間内で、被害はほとんどなかったが、私は事務室で机につかまりながら、揺れが収まったらどう動いて何をすべきかを頭の中でToDoリスト化し、これ以上揺れが大きくなったらどうするかをシミュレーションしていた。後になってみると、もしこの経験がなかったら、2日後にはもっとうろたえて落ち着きを失っていたかもしれないと思う。

今ここで何か起きたら自分はどう動けばよいか、といったことを、組織の上層部だけが考えるのではなく、職員一人一人が日頃からイメージトレーニングしておくのがとても重要である。

8. おわりに ～あの日から1年～

今日（研修会当日）は2012年3月8日（木）、まもなく震災から1年を迎える。一昨日（3月6日）から、本館のエントランスホールで「2011.3.11～あの日から1年」と題して写真パネルを展示している（写真20）。震災直後の館内の様子や、HARUとともに作業をしている姿などの写真である。また、来週（3月12日）からは、震災関連図書を数百冊並べたコーナーを閲覧室内に設置する。しかし、被災した人の中には、まだ見たくない、見るができないと思う人もいるはずである。

『大学図書館研究』誌から、6月刊行予定の号に掲載される震災報告の執筆依頼を受けたが、書いている途中でつらくなって一時投げ出してしまった。報告を書くというのは、震災に真っ正面から向き合うということで、それがあんなに苦しいとは思わなかった。先週、テレビで震災特集を連日放映していたが、1分でチャンネルを変えてしまった。今までは、自分は被災者と言えるほど被害は受けていないし、苦勞もしていないと思っていたが、精神的には結構なダメージを受けていたのかとようやく気づいた。

それでも私たちには、毎日図書館に来てくれる利用者がいる。いざとなれば、助けに来てくれる学生たちがいる。そういう人々のために前へ進んでいきたいし、また、利用者ちゃんと守れるようにしっかり備えておきたいと考えている。

そして、このような私たちの体験が、みなさんの参考になれば、大学図書館の今後の防災・減災に少しでもつながれば、と願っている。



写真20 写真パネル展示

私の東日本大震災体験 — 図書館の被害と復旧を中心として

郡山女子大学図書館司書係長

和 知 剛

皆さん、こんにちは。郡山女子大学の和知と申します。今日はよろしくお願いたします。本日、このような機会が与えられたことに対して、今日この会場にお集まりのみなさまに感謝しております。ありがとうございます。

今日は「私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心として」ということで、私の体験を中心にお話をさせていただきます。

本日の内容ですが、1枚もののレジюмеがみなさまのお手元に行っているかと思えます。まず「はじめに」ということで自己紹介等をさせていただきます。次に「当日のこと」。被災状況について、被災を伝えるということでソーシャルメディア等の活用についてお話をします。それから「復旧への道」、今日に至るまで、いろいろ取り組んできたことについてお話をします。最後に「これからのこと」として、今後どうしていくか、ということをお話しできればと思っております。

早速、「はじめに」です。突然この場に見たこともないひとが現れて、福島県とか郡山市とかどのあたりだろうか、このひとは何者ですかと面食らっておられる方もいらっしゃると思えますので、まず自己紹介から始めましょう。

簡単な自己紹介はレジюмеに書きましたが、1965 年生まれで、幼稚園から大学まで北関東育ちです。大学を卒業後、1988 年 4 月から郡山女子大学図書館に勤務して現在に至っております。

1997 (平成 9) 年から私は今のポジションにありまして、気が付くと、上は館長と副館長しかいないという立場で 10 年ほどやっております。当館は専任職員が 4 人しかおりませんで、この体制でもう 10 年ほど仕事を回しています。有資格者を 4 人揃えているということで、意外に同じ程度の規

模の大学図書館に勤務している方からはうらやましがられることもあります。

先ほど小陳さんからお話がありましたように、小陳さんとは大学の同窓生です。あちらが先輩です、念のため (笑)。また私が大学在学中に、現在は名古屋大学附属図書館にいらっしゃる加藤部長が、大学の図書館においででした。それ以来、お付き合いをいただいております。

レジюмеの自己紹介に家族は妻と子ども 2 人と書きましたが、実を申し上げますと郡山には単身赴任です。今回の震災では、そのおかげである程度は家族の心配をしなくて済んだというところもありました。「ある程度は」、というのは長女が 2010 年の 4 月より仙台の大学に進学しておりまして、去年の 3 月は私同様、この震災に巻き込まれました。3 月 18 日に一度仙台から脱出して妻の実家がある島根県の安来というところに避難しました。身内の話は今回の話題から逸れますので、このあたりで話を戻します。

郡山市のデータはこちらの URL で確認できます (http://www.city.koriyama.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=13926)。郡山市は福島県のほぼ中央部にあります。江戸時代は、今の東北本線や新幹線が走っている近在が宿場町になっていました。明治以降は、安積開拓という開拓をやりまして、明治・大正のころは製糸工場などもあったようです。これで経済的に発展をしまして、工業団地などもあり現在は自称「経済県都」です。

イメージキャラクターは「がくとくん」で、愛称は「楽都郡山」。「経済県都」といったら聞こえはいいのですが、実は 20 年ぐらい前まで郡山市の

あだ名は「東北のシカゴ」でした。シカゴというのは、要するに「ギャング」という話です。そのイメージを払拭しようと、郡山は音楽の都ですよ、と。郡山市にあります安積黎明高校、元は安積女子高校といったのですが、ここの合唱部が20年ほど連続でNHKの学校音楽コンクールで金賞を取っていることもありまして、合唱が盛んな音楽の街のイメージで売りこもうではないかと。そこで現在は音楽の楽で「楽都郡山」。「東北のウィーン」と、一所懸命に古いイメージを払拭しているところでした。

人口は約33万人です。先ほどのURLに載っている人口が33万9,000人で、レジュメには33万7,000人とありますが、調査をした時期が若干ずれております。

大震災で事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所から大体60キロぐらいのところにあります。国道やJRが何本も走っておりまして、福島県の真ん中辺にありますので、結構交通の便のいいところではあります。

私立大学が本学以外に奥羽大学さんと日本大学の工学部さんがありまして、都合3校が郡山市内に立地しております。



この建物が私の勤めている図書館です。ホームページはこちら (<http://library.koriyama-kgc.ac.jp/>) です。Twitterも運営しています。こちら (<https://twitter.com/LibKGC>) です。

1階が昔の衣装をまとった人形を並べている「日本風俗美術館」という施設になっていまして、その真ん中に閉架書庫があるという、ちょっと不

思議な構造になっております。1966年に現在の建物ができました。2007年に耐震補強工事が完了しています。阪神淡路大震災クラスの地震にも耐えられるという触れ込みです。実際に建物は、今回の地震でも大きくどこかがゆがむということはなかったのですが、元々建物の建っている地面が昔は沼地だったらしく、液状化現象が起きました。また図書館から南北に、隣の建物まで地面が隆起したらしく、1階の床が全部でこぼこになりました。今日現在、まだ一部、それが直っていない箇所があります。

蔵書が約11万冊です。年間の増加冊数は約2,000冊と書きましたが、ご多聞に漏れず、年々減っております。職員は、先ほど申し上げたとおり4名です。常勤の有資格者が4名、その他、午後5時以降の開館時間内に学生のアルバイトが1人、カウンターに入るとい形になっています。

自己紹介と図書館の案内はこのくらいにいたしまして、当日のお話に入ります。2011年3月11日金曜日。先ほど小陳さんからお話いただいた東北大学附属図書館でも、この日は館長さんや事務部長さんが東京にいて不在だったそうですが、実は私も、この日はたまたま休暇を取っていて、図書館にいなかったのです。この日の午前中に通院の予約を入れていまして、午後は時間があつたので本を買いに行こうかと、午後2時46分、私はたまたまジュンク堂書店郡山店にいました。

郡山市の駅前の繁華街に、うすい百貨店という地元資本の老舗の百貨店があります。そこの9階に一昨年10月からジュンク堂書店が入っています。その前に入っていたのは、八重洲ブックセンターでした。

どうやら私はどこにいても、何かがあつた時に本から逃れることはできないようです。

私は普段から出かける際はデジタルカメラを持ち歩いていました。この非常事態から自分が避難することももちろん大切でしたが、後で何かの記録になるかもしれないと思って、ジュンク堂書店さんの店内も撮影してみたのがこちらです。

この写真ではよくわからないかもしれませんが、

ジュンク堂の書架は下のほうが若干斜めになっています。上のほうは真っ直ぐですが、だんだん下に下りてくるに従って少し斜めになっているような書架でしたので、下にある本はあまり落ちていません。



小陳さんの話の中にも、職員の方が「落ち着いてください」と何度も繰り返していたので大変助かりました、というお話がありました。やはりジュンク堂でも、店員さんが、本人は泣いているのですが、避難誘導を懸命にやっていました。心細かった身としては、とてもありがたかったです。

建物の外に出て、とにもかくにも、私は勤務先に戻って返さないともまずいよねということで図書館に戻ることになりました。普段は駅前から勤務先まで車で15分ぐらいで行けるのですが、この日は、まず駅前がほとんど停電してしまっていて、駐車場から車が出せなくなりました。どうしようかなと思っていたら、駐車場の管理人の方が来てくださりまして、取りあえずお金を100円でいいから開けるとのことだったので、私の財布の小銭が90円しかなくて、「すみません、90円しかありません」と言ったら、今回は仕方がないということで、90円で通していただきました。これも非常に感謝しております。

さて勤務先に戻って返そうと思うのですが、大きな道がやはりみんな渋滞していました。とにかく駅から住宅地へ向かう方面がものすごい渋滞で、車が動かないのです。さすがに郡山に20年もいると、若干の土地勘もありますので、取りあえず細い路地に車を入れてぐるぐる回りながら、何

とか勤務先までたどり着きました。

たどり着いたのが午後4時前後だったように記憶しています。みんなが避難した直後に大きな余震が1回来ているらしいのですが、私は車を運転中でよく分かりませんでした。その大きな余震でさらに図書館の中がひっくり返ったという状況だったようです。

この日、図書館にいた職員4名のうち2名、私ともう1人がこの日は休暇を取ってしまっていて、休暇を取っていたもう1人の職員は、たまたま東京に行っていて帰れなくなりました。なかなか戻ってこられなかったのも、翌週連絡がついた際、無理して戻ってこなくても大丈夫だから、と私は言いました。結局、戻ってくるのに1週間以上かかりました。

当日図書館にいたのは、職員2名と、学生がたぶん7、8人だったと思います。春休みのこの時期に図書館に足を向ける学生は、国家試験の勉強をやっている学生が中心です。こちらの職員の指示にも素直に従うような、まじめな学生が多かったのは、よかったかなと思っています。とにかく無事が何よりなので、図書館の中で怪我をしたとか、具合が悪くなって病院に担ぎ込まれたという学生がいなかっただけでも、取りあえずその日はほっとしていたような感じです。

百聞は一見にしかずということで、写真を何枚もお見せします。



これが図書館の1階の外側の液状化現象の様子です。これを撮ったのは、当日の夕方4時半ぐらいだったと思います。



これが2階の閲覧室です。倒れているのは昔のタイプの木製の雑誌架ですが、固定されていませんでした。どういうわけか、奥に写っている雑誌架は倒れていないのに、手前のものだけが倒れています。この雑誌架は、午後2時46分の本震ではひっくり返っていなかったのだそうです。避難するときに確認した際は、まだ倒れていませんでしたとのこと。たぶんその後の大きな余震でひっくり返ったのだと思いますというのが、当館の職員から聞いた話です。



別の角度から同じ書架を撮ったものですが、この木製の書架は大きく倒壊したにもかかわらず、立て直して後ろを止めたら元どおり使えたので、そのまま今も使っています。その代わりに、後ろに見えるスチールの書架は、ゆがんで駄目になりましたので処分しました。後ろに人影が見えるかと思いますが、これは一度避難した学生が、自分の荷物を取りに戻ってきたときに撮影したものです。



建物の中心部にある積層書架から雪崩を打って、どっと崩れてきた本の山です。先ほど休憩中に、どなたかに「書籍流」が、というお話をしましたが、文字通り雪崩を打って、土石流のようにどどどどと崩れ落ちてきました。



11日当日の図書館事務室の写真が、これしか残っていませんので、わかりにくい写真で失礼します。図書館事務室の中の書架には、まだ受入業務が済んでいない本や、出版社のカタログが並んでいたのですが、それが全部落ちました。一番奥に見えるのは業務用サーバーの無停電電源装置(UPS)という重い機械ですが、2台を上下に積んであったものが、上の1台がずれて落ちかかって

いるのを見て、ちょっとびっくりした次第です。



これは3階の閲覧室の書架です。手前にスチールの書架が1本倒れているのが見えるかと思いますが、これも倒れたものは駄目になってしまい処分しました。ここは楽譜が並んでいる書架だったのですが、楽譜は1冊が非常に軽いので、何も固定されていないと落ちてしまうのですね。



こちらは、他大学から送られてくる紀要を置いてあった書架の様子です。これもやはりそんなに重いものではないので、揺れとともにみんな落ちました。おまけにここの書架は倒れたわけではなく、足の部分が書架3本とも駄目になってしまったのです。仕方がないので、後日、3本

の書架から無事だった部材を拾って2本の書架を作ってもらい、駄目になった部材を捨てて、新しい書架を買い直しました。



先ほどの紀要のところの別角度の写真になります。この部分に本が残っているように見えるのですが、実は、上から本が落ちてきて、そのおかげでここの本は前に落ちなかったというだけのことのようです。



これは2階の閲覧室の参考図書が並んでいた辺りです。やはりみんな落ちています。右手奥のグレーの棚は、貴重書を入れてあった書架ですが、11日当日は、この書架が手前に倒れかかってきました。この写真は14日の午後にお手伝いの方を頼んで、グレーの書架を立て直した後に撮ったものだと思います。このグレーの書架は、ゆがんでしまって使い物にならなくなり、後日処分をすることになりました。

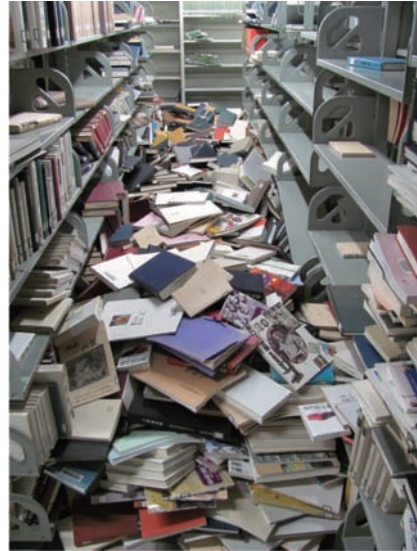


これは3階閲覧室の木製書架があるところです。奥にも書架が見えますが、手前に倒れかかってきています。この書架は、耐震補強のときに裏を止めなかったのだそうです。というのは、この写真だけでは分かりにくいのですが、この書架の後ろにダンパーを耐震補強のときに入れたのですが、奥の壁際に付けてあった書架を手前に持ってこざるを得なくて、そこの間にダンパーが入ったものですから、裏を止めることができなくなっていました。その書架が前に倒れてしまったという形になります。



こちらは美術書等の大型本を入れていた書架です。書架そのものは倒れなかったのですが、本は

自分の重みで全部落ちました。ここに学生さんがいなくて本当によかったな、というのがここを見たときの私の感想です。



これは積層書架の内部の様子です。下から数えて3番目、中二階のような積層書架になっているところですが、通路に本が落ちてきて通れなくなっているのです。両方の書架から本が落ちてきて、うず高く積み上がりました。



これは積層書架の一番上の階の、新聞の縮刷版が置いてあったところです。新聞の縮刷版は、この後確認したら、結局、15冊ぐらいを修理に出すことになりました。本が真ん中から真っ二つに割れてしまったり、表紙が破れて飛んだり、そのよ

うなものが続出しまして、ある程度までは職員が直せるのですが、うちでは無理だというものを15冊ほど業者さんをお願いして、製本をやり直しております。



これが1階にある、閉架書庫の中です。復旧作業では最終的にこの箇所が残りました。閉架内に人が入れるようになったのは、今年（2012年）の1月です。1月にこの中に入ってみたら、先ほど1階の床がでこぼこになりましたという話をしましたが、閉架書庫の床が工事から取り残されてしまってます。業者さんが来て測ってくれたら、この階の床は本来の高さよりも7センチぐらい上がっているのだそうです。ですので、この中で作業していると、平衡感覚がおかしくなって気持ちが悪くなってくると、当館の職員が言っていました。



これはおまけで、私の家です。来週から片付け始めるから今日はもう帰れということで、3月11日の午後5時半ごろに家に帰り、ドアを開けてみたらこの有様でした。もしここに2時46分にいたら、

おそらく無事では済まなかったのではないかと思います。程度はともかく怪我していたでしょう。



こちらは勤務先の近所にあります、開成館と呼ばれる擬洋風建築です。明治初年に地元の大工さんが建てたもので、外見は西洋風ですが、実際に使われている手法は漆喰（しっくい）という和風の建築手法が使われている国の重要文化財です。ちょっと見ていただくとお分かりかと思いますが、漆喰がひび割れていたり、はがれ落ちたりしています。



これが開成館の正面です。やはり壁がはがれ落ちています。この建物は古いため、直すのに億単位のお金がかかるのだそうで、2012年3月現在修復にいたっておりません。この建物ともう1箇所、現在の安積高校に旧福島中学校本館という洋風建築が残ってしまっていて、これも国の重要文化財に指定されていますが、この2つの建物がいまだ手付かずで、修復するのに多額の予算が必要ということです。



このお墓は、先ほど「郡山市の歴史では安積開拓」ということにちらっと触れましたが、その安積開拓の功労者である中條政恒という方のお墓です。当館の近所にあるのですが、こちらは墓石が倒れてしまいました。

これは余談ですが、中條政恒の息子が、慶應義塾の赤煉瓦の図書館の設計をやった中條精一郎という建築家です。その中條精一郎の娘が、安積開拓を舞台にした『貧しき人々の群れ』という小説を書いた宮本百合子だそうです。

話を当館のことに戻します。当日はドタバタのうちに帰宅して、我が家はわやくちゃになっていたのですが、取りあえず寝る場所は確保できました。私が住んでいる付近は、当日のうちに電気は復旧しました。都市ガスも無事でした。水道だけが、私が家に戻ってきたころから使えなくなりました。翌週の水曜の朝まで水が出なくて、いろいろと苦労することになるのですが、それはそれとして。

家族や友人が心配していると思ったので、私は無事を伝えなければな、と。そして郡山はこんな状況ですというのを何とか知人たちに伝えなければ、と考えました。

ところで11日は大学全体が停電になりました。どこが壊れているか分からないので、安全を期してのことです。翌週、通電してみたら、本当にどこかが壊れていたらしく、3月末に電気関係の大きな工事が入りましたが、とにかく当日はどこが壊れているか分かりませんから、確か午後6時前

に大学全体の電源が落とされています。ですので、我々も図書館のサーバーの電源を落として帰宅しました。そうすると図書館のWebサイトが使えないのですね。私は自分の家の端末からも図書館のWebサイトにお知らせなどを更新できるようにしていたのですが、肝心のWebサーバーの電源が落ちていますので、図書館のWebサイトをそもそも見ることはできないし、更新することもできないわけです。

さて、どうやってみなさんに無事を知らせることができるかなと思ひまして、帰宅してからいろいろ考えました。部屋の中もめちゃくちゃで、デスクトップパソコンがあるところまでたどり着けません。

幸い停電はしていなかったので電源は確保できていました。携帯電話も電話連絡は不通でしたが、iModeは断続的ですが通じていました。では、Twitterがあるじゃないですかと。記憶に間違いがなければ、2009年3月ぐらいから個人でもTwitter(<https://twitter.com/#!/wackunnppa>)をやっている、取りあえずこれを使えそうでした。ただ、携帯電話でTwitterを更新したことは、このころまでそれほど機会がありませんでしたが。

とにかく自分のTwitterで無事の第一報を伝えたのが、記録によりますと3月11日18時14分でした。内容はこんな感じでした。

「取りあえず生きています。15分おきに揺れています。電気は来ていますが、水道が弱いです。街のあちこちがガス漏れしていました」

(<https://twitter.com/#!/wackunnppa/status/46136825168928768>)

「水道が弱い」というのは、Twitterに書いたときは本当にそのとおりチョロチョロとしか水が出なかったことを指します。この日の夜のうちには水道は止まりました。あのとき、被災地によってはガスが来ない、水道が来ない、あるいは停電しているという形で、あちこちの場所でライフラインが途切れていました。また「街のあちこちがガス漏れしていました」というのは、郡山市はだいたい都市ガスで、交差点で車を止めると、どこからともなくガスの匂いがするという状態だったこ

とを指します。

11日の晩は確か11時ぐらいに寝たと思います。家で夜通し復旧作業をするわけにもいかないなと思って、取りあえず寝るぞ、明日から体力勝負だぞということでした。もっとも、11日からしばらくの間、ラジオもテレビもつけっぱなしで寝ていました。おそらく、テレビをつけっぱなしで寝るのをやめたのが3月18日ぐらいだったと思います。ラジオは結局、家にいるときは3月いっぱい、ずっとつけていたような気がします。

ラジオとテレビを別々につけていたというのは、テレビの画面が、ラジオが伝えていることと違うことをやっているケースがあるので、どうしても片方だけだと入ってこない情報が、あのころはあったのです。ラジオもテレビもつけっぱなしにしておいて、音声はラジオが中心で、ただテレビの画面も開けておいて、例えばニュースの時間に応じてテレビの音声を入れてみるという形を取っていました。ちなみに、両方ともNHKです。

さらに、いつのころからか、NHKの全国放送をUstreamが中継をしていました。そうすると、福島で見られるNHKはNHK福島から放送されるものなので、時々ローカルに画面が切り替わるわけです。福島の話も大切ですが、ほかの岩手や宮城が一体どういう状況になっているのか知りたいときに、福島に画面が切り替わったおかげで見落としてしまう情報があるかもしれないなと思って、UstreamのNHKも端末を立ち上げて見るようにしました。それをやるようになったのは、3月14日に福島第一原発が水素爆発を起こしたニュースが入ってからでした。

翌3月12日は休日でした。休日でしたので、自宅の片付けをしました。本棚から落ちた本を片づけ、何とか自宅のパソコンが使えるところまで、12日のうちに片付け終わりました。自分のTwitterの更新は携帯電話でもできるのですが、当館のTwitterを更新するために、パソコンを使えるところまで復旧させた方が楽だ、という判断でした。

自宅のパソコンから当館のTwitterを更新したのが12日の10時52分です。その内容はこんな感

じです。

「郡山女子大学図書館です。昨日（3月11日）の地震で罹災したため、しばらくの間休館します。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしく願います。罹災された皆さまのご無事をお祈りしています」

(<https://twitter.com/#!/LibKGC/status/46388051877969920>)

今回の経験から、大規模災害時に情報を発信するのにソーシャルメディアは有効なのだあらためて確認できました。図書館関係者に限らないと思いますが、現在の情報を扱う立場にいるなら、普段から何らかの形でソーシャルメディアに親しんでおいたほうがよろしいのではないかと考えます。

こんな大きな災害のとき、このような緊急事態のときに、人間はおそらく、自分がそれまでやってきたことと違うことをいきなりやれと言われても、いきなりやりたいと思っても、おそらくはできないのではないのでしょうか。普段からやっていることの延長線でできることを考える、そのほうが楽だと思います。普段からやっているから、緊急時にもこんなことができるんだよというふうに考えておいたほうがいいです。何かが起こったときに初めて慌ててTwitterのIDを取得する、あるいはFacebookのIDを取得するよりも、普段から使い慣れていたほうが、たぶん緊急事態のときに使いこなすことができるのではないかと思います。

ところで、先ほど小陳さんから話を振られましたが（苦笑）、ソーシャルメディアのほうが日本図書館協会よりも、よほど役に立ちました。当館の場合、図書館関係の団体で一番最初に災害見舞いをいただき、現在の状況を確認してくれたのが私立大学図書館協会でした。その次が東北地区大学図書館協議会。福島県内大学図書館連絡協議会は内情を知っているので、最初からあてにできないだろうなあ、と考えていましたが。

私立大学図書館協会からは「何かできることはありませんか」という話も来ました。ただ、その話があったので、「復旧のために什器などを買う際に、まとめるための窓口をしていただけると助か

るのですが」という話をしたら、「それはちょっと難しい」と言われまして、ではほかに何ができるのだと思ったのですが。

それはともかく、東北地区大学図書館協議会のホームページには、このときに調査をした東北地区の各大学の図書館の被害状況を PDF にしたものが確か載っています。

(<http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/earthquake.pdf>)。私立大学図書館協会も同じようなアンケートを採っています。

日本図書館協会とはいうと、各図書館の被災状況については国が調べるべきだという文書は出していました。が、当人たちはそのための周旋など何かしたような形跡は認められません。その後、去年(2011年)の図書館雑誌11月号には被災地に行ったという人の話を書いてありましたが、実際に被災地で日図協の相手をした人の話によると、かなり問題のある内容でした。

日図協についてはこれ以上お話すると愚痴になりますので(苦笑)、「復旧への道」に話を進めます。

先ほどこの辺に本がいっぱいぶちまけられていたシーンをお見せしましたが、2011年3月末で、この程度にはきれいになりました。



3月16日の午後に附属高校の先生方をはじめとする80人の手助けが来まして、一気に片付けられてしまいました。ここまでの段取りには若干の問題がありましたが、いきなり大勢のお手伝いの方々に来ていただき、職員だけでは一か月はかかるだろうと考えていた作業が1時間ほどで終了し

たのは、大変ありがたかったです。

その80人の皆さんに、書架から落ちていた本をこのように閲覧室の机に積み上げていただきました。



これは紀要の書架です。こちらもその80人の皆さんと、その後、うちの職員が作業スペースを確保するのに本を積み上げました。この箇所がのちに4月7日夜と4月11日に立て続けにあった余震で、再度の書籍流になってしまいまして、「賽の河原の石積みか、シジフォスの神話か、これは」とぶつぶつ言いながらもう一度積み上げなおしておりました。



3階の書架もこんな感じで、取りあえず本を積み上げて作業スペースを確保しました。

これは積層書架の中です。これは、80人の手助けとは別に、3月18日にはほかの用事でいらしていた土木関係の方を4人ほどお願いし、とにかく通路を確保していただければ幸いですということで、書籍流で落下した蔵書を取りあえず書架に戻してもらいました。ですから、この部分は平積み



ですし、分類番号は全く関係なく、とにかくまずは本を積み上げて通路を確保してください、という形で作業してもらった箇所です。

復旧の道としては、以上のようにまず作業スペースと通路を確保して、それから排架の並べ直しを4月から始めました。繰り返しになりますが、4月7日の晩の23時ごろと、4月11日夕刻の大きな余震でやり直しになってしまったところもあって、それを見たときは一同がっかりして「これは疲れるね」という話をしていました。

学生ボランティアが4月19日から当館にも入りました。この学生ボランティアについても、なかなか職員と意思の疎通が難しかった部分があり、少し難しいところがあったのかなと思っています。

ボランティアを使うときは、学生側の経験や考え方にもよるのでしょうかけれども、あまり細かいことを言わないで、大まかな段取りだけを付けてやらせたほうがいいのではないかと、私は個人的に考えています。

大学は平成23年度に予定していた学校暦がほぼひと月後ろにずれこみまして、在校生の授業が始まったのが連休明けの5月9日(月)でした。新入生はこの日から入学前教育を始めて、5月11日(水)が入学式でした。4月の余震のこともあり、3階はこの時点で蔵書を書架に戻せなかったもので、5月9日の在校生の講義開始に合わせて2階の閲覧室のみで開館を始めました。この時点では積層書架と3階は、申し訳ないですが立入禁止でお願いしますということにしました。資料の貸出も当面見送りました。とにかく学生の勉強場所を

確保するという点から始めることにしたわけです。

その後、館内整備を進めまして、6月13日(月)から館内全てを利用して開館いたしました。学生の夏季休業が短縮され、講義が再開された8月29日(月)から開館時間の延長によりやくこぎつけました。その他すべての業務を震災前同様に戻したのが、この8月29日でした。

ただ、私は事務責任者でありながら、とあるシンポジウムで本日同様、震災体験のお話をするために上京していたため、8月29日は不在でした。

この報告のために撮影した、2012年2月末現在の写真をお見せします。



これがほぼ復旧が完了した形になります。本がほぼ所定のところに戻っております。閲覧室の机の上から本がなくなりました。



これは3階の書架です。紀要の書架は、左側の2台が新しく買い直したものです。右側の2台は、元からあったものを解体して組み立て直したものです。この写真だとちょっと分からないので

すが、2カ所に、使わなかった部材を使って上部を補強してあります。



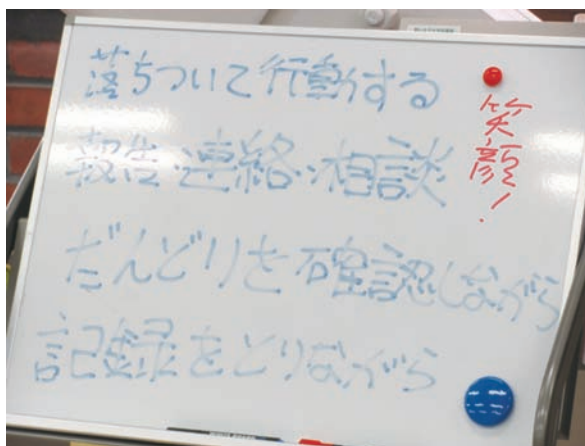
こちらが3階の書架になります。震災前同様に戻っているかと思えます。

今後のことですが、去年（2011年）の12月に政府から原発事故の収束宣言が出ましたようですが、現地の現状から見れば、そんなことは全然まだまだ先のことだろうという感じになっています、いまなお問題が山積みになっております、という感じがしております。

やはり平成24年度の新入生は減っております。それが回り回ってきて資料費も減るのでは、ということもあります。また来館者数の統計を作っているのですが、平成22年度は学生さん1人当たり8回ぐらいの入館がありました。平成23年度は、学生さん1人当たり4.5回ぐらいにまで落ちていきます。ということは、平成23年度は出足でつまずいたとはいえ、震災に関わりなく当館は、図書館

としての魅力にかげりがあるのではないかということ私としては考えています。まずは目の前の危機をどのようにして解決していかなければならないのかなと、この機会に図書館運営の改善にも努められたらいいな、何とかピンチをチャンスに代えられないかな、といろいろ考えております。

時間を少しオーバーしてしまっ申し訳ございません。最後になりますが、この写真は是非出すべき、と言われたので出します。



これは3月14日、復旧作業を始める前にホワイトボードに私が書いたものです。「落ち着いて行動する。報告・連絡・相談。段取りを確認しながら。記録を取りながら」。そして一番最後に赤で「笑顔！」と書いてあります。これは被災当時Twitterでも公開したのですが、割と評判がよかったようです。汚い字で恥ずかしいものですが、最後にこれをお見せして終わりにいたします。

ご清聴ありがとうございました。

もっと使える、最近のNII学術コンテンツサービス ～CiNii、KAKENを中心に～

国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課コンテンツチーム(ポータル担当)

服部綾乃

本稿は平成24年8月2日(木)に中京大学で開催された「第66回東海地区大学図書館協議会研究集会」で事例報告した内容に補足・追記を行ったものである。

1. はじめに

今回の研究集会のテーマ「大学図書館の有効活用～この一工夫が大切だ～」は、大学図書館を利用者に有効活用していただくために、図書館側が一工夫しよう、その一工夫のための事例やヒントを共有しよう、ということだと思われる。国立情報学研究所(以下、NIIという)からは、一工夫に役立つためのインプット情報の一つとして、日々機能改善を繰り返しているNII学術コンテンツサービスに関する最新の情報をご提供したい。

NIIでは、大学図書館等、学協会と協力して学術コンテンツを確保し、さまざまなインタフェースで一般に発信している。確保のフェーズで大学図書館に身近なものとしては、日々利用しているNACSIS-CAT、そして本研究集会に先立つ東海地区大学図書館協議会総会でも話題になったという機関リポジトリがある。今回は、発信のフェーズのうち、NIIのキラーコンテンツである、CiNii Articles、CiNii Books、KAKENについて詳しくご紹介する。

まず、NIIの学術コンテンツサービスについて実際の利用統計から利用のされ方を見てみると(図1)、完全にCiNii Articles(赤い線)が飛びぬけていることがわかる。夏季・春季の休業時期に利用回数が急激に減る傾向はサービス開始時から変わらないが、これはユーザー層として学生がかなりの部分を占めているためと思われる。

他のサービスはCiNii Articlesと同一グラフで表

すとほとんど利用されていないように見えてしまうが、ここ数年KAKEN(黄緑の線)の利用が伸びている。KAKENはCiNii Articlesとは違う利用のされ方をしており、科学研究費助成事業の内定時期である4～5月頃、申請時期である9～10月頃にアクセス数が増加する。これは採択された後、自分の情報が気になってアクセスする、申請時に過去採択された情報を参照する、という研究者の動向によるものである。

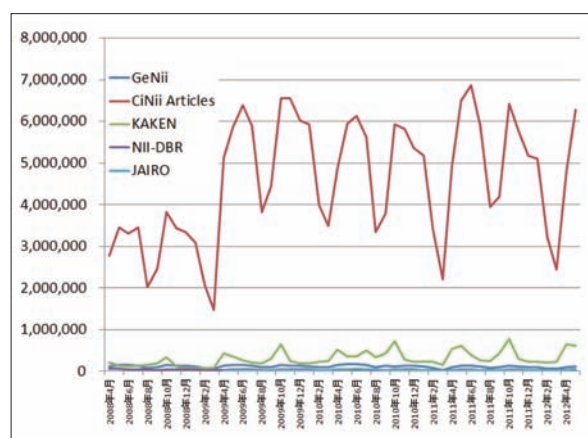


図1 各サービスの月間サーチ数

2. CiNii 概要

2.1. CiNii とは

CiNii は日本の論文をさがす「CiNii Articles <<http://ci.nii.ac.jp/>>」と大学図書館の本をさがす「CiNii Books <<http://ci.nii.ac.jp/books/>>」の二つの機能を持っている。

今回の研究集会会場で挙手をしていただいたところ、CiNii Articles はほとんどの方が利用、CiNii Books と Webcat では Webcat のほうが若干利用が多いという状態であった。Webcat は平成25年3月8日(金)でサービスを終了するので、Webcat

を利用されている方は、本稿にて CiNii Books の利点をご理解いただき、Webcat から CiNii Books に乗り換えをしていただきたい。

2.2. CiNii Articles とは

CiNii Articles は約 1,570 万件の論文データと約 385 万件の本文 PDF を提供する論文情報データベースである。

CiNii Articles の利用方法としては、「無料」、「機関定額制」、「個人 ID」がある。検索は無料で利用でき、本文 PDF の約 5 割も無料で利用できる。機関定額制を契約していれば、本文 PDF の約 9 割を定額内で利用することが可能である。現在、国内 4 年制大学の約 7 割以上が CiNii 機関定額制をご利用いただいている。

CiNii Articles は複数のデータベースを収録しているが、収録したデータをそのまま公開しているわけではない。複数のデータベースに重複して登録されている論文データも存在するため、著者・論文データが同定できた場合はデータを統合して検索・閲覧に提供している（図 2）。

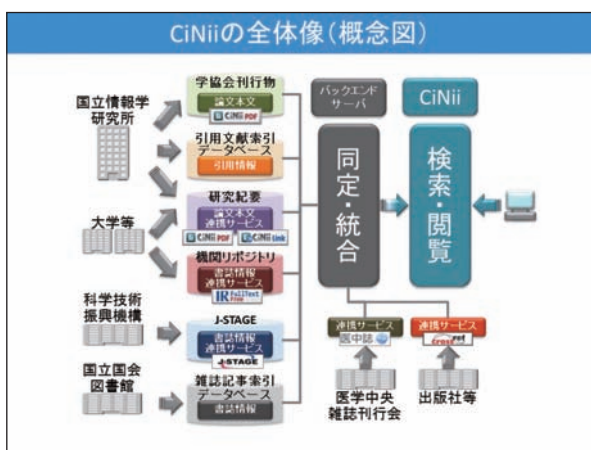


図 2 CiNii の全体像

同定・統合処理は、似ている度合いをシステムで計算し、度合いが高ければ自動的に統合、自動的に判定できないものは、人間が目で見ているかどうかを判定している。この「同定・統合」が CiNii サービスのキモであり、複数のデータベースをすべて同じ方法で同定・統合している。

次に、CiNii Articles に収録している各データ

ベースの詳細について述べる（表 1）。

NII-ELS 学協会刊行物は、NII と学会で覚書を締結し、NII で冊子を電子化して提供しているデータベースである。利用条件や料金は各学会で定めているため、一部有料（従量制）のコンテンツも存在している。

表 1 CiNii Articles 収録各データベース

データベース名	データ数	本文	料金
NII-ELS 学協会刊行物	約 345 万件	○	一部有料
NII-ELS 研究紀要 (各大学の共同入力)	約 105 万件 (本文 40 万件)	○	無料
引用文献索引 データベース	書誌：約 195 万件 引用：約 2,170 万件	×	引用は 有料
雑誌記事索引 データベース (国立国会図書館)	約 1,070 万件	×	無料
機関リポジトリ (各大学)	約 70 万件	○	無料
J-STAGE (科学技術振興機構)	約 50 万件	○	無料
日本農学文献記事索引 (農林水産省農林水産技術 会議事務局筑波事務所)	約 12 万件	○	無料
CiNii Articles 合計(※)	約 1,570 万件		

※ 平成 24 年 10 月 1 日現在（重複データが統合されるため、単純合計とは一致しない）。

大学等で発信している学術情報の連携の仕方としては NII-ELS 研究紀要と機関リポジトリの二通りがある。大学 Web サイト等で独自に研究紀要を公開している場合は、学術コンテンツ登録システムで登録していただいた研究紀要情報（NII-ELS 研究紀要）を CiNii Articles に収録している。また、最近では機関リポジトリからのデータ投入も増加している。ぜひ機関リポジトリを立ち上げ、論文を登録し CiNii と連携していただきたい。

J-STAGE から現在約 50 万件のデータを投入しているが、J-STAGE 自体は約 238 万件のコンテンツを有しており、さらなるデータ連携が望まれる。J-STAGE 参加学協会からの許諾が得られたもののみ CiNii Articles でも検索可能となっているが、この仕組みをご存じでない J-STAGE 参加学協

会も多いと思われる。学内でJ-STAGE参加学協会の学会誌を担当している教員の方がおられたら、ぜひCiNii Articlesとの連携を勧めていただければありがたい。

続いて、検索機能について紹介する。CiNii Articlesの検索窓には「論文検索」「著者検索」「全文検索(beta)」三つのタブが存在する。

一番目の「論文検索」タブは論文名や著者名、雑誌名で検索するという、機能を改善しつつ従来から存在していた通常の論文検索である。

二つ目のタブとして平成22年4月から公開している「著者検索」がある。同姓同名・異体字を解決するために著者情報を同定し、パーマリンクのある著者ページを提供しようというものだが、論文情報ほど著者情報は同定しきれていない。誤って同定・統合するよりは分かれていたほうが良いため、確実に同定できるもののみ統合している。ご自身や学内の先生方などの著作でこの著者とこの著者は同一と判別できる場合は、ぜひCiNii Articlesの検索結果画面でチェックを入れて、「同一人物の報告」・実行ボタンをクリックしてNIIにご指摘いただきたい¹⁾。特に図書館員の皆様にはデータ精度向上にご協力いただければ幸いです。

三番目のタブとして「全文検索(beta)」があり、ここからNII-ELS(国立情報学研究所電子図書館サービス)由来の約385万論文の全文を検索することができる。NII-ELSの本文PDFはテキストデータを持たない画像データであるため、検索用データとしてOCRによるテキスト化を行った。これにより、書誌データ・抄録に含まれない情報からも検索可能となった。

2.3. CiNii Books とは

NACSIS Webcatは、永年皆様にご愛顧いただいていたが、平成25年3月8日(金)をもって終了する。Webcatの後継サービスとして、CiNii Booksを平成23年11月に公開した。CiNii Booksでは、Webcatと同じNACSIS-CATの書誌・所蔵データ対象に、より豊富な機能を利用できるようにしている。

なぜこれほどまでに利用されているWebcatを終了するのかということだが、設計思想が時代に合わなくなったという点がある。そもそも1990年代に開発されたWebcatには他のWebサービスと連携するという設計思想がなく、検索機能もわかちを意識する必要があるなど図書館員好みではあるが、検索エンジンになれた現代の学生には使いにくいシステムとなっている。Webcatに改修を行って今どきのシステムにすることは無理があり、一から新しいシステムを設計する必要があった。

新システム設計の際は、個々の画面や機能を積み上げて行ったのではなく、まずウェブAPIありきの発想から開始した。NIIで大学図書館等の関連機関が必要とするすべての機能を用意するのではなく、使い勝手の良いウェブAPIを公開し、それぞれの図書館・サービスに合わせて高機能化していただくという発想である。とはいえ、Webcatの代替として、当たり前を検索ができるWebインタフェースをNIIでも構築し提供する必要があるため、CiNii Booksを開発・公開した。ウェブAPIについては今回特に述べず、CiNii Booksの機能について紹介することとする。なお、CiNiiのウェブAPIについては、Articles・Booksともにヘルプページ²⁾に詳細を記述している。

CiNii Booksの簡易検索窓は「図書・雑誌名、著者名、出版社、ISBN、ISSN、NCID、著者ID等」が検索対象である。詳細検索では他に件名、分類、注記、資料種別等項目を対象として検索を行うことができる。Webcatの基本機能を継承しているが、まったく同一の検索機能を実現しているわけではない。引き継ぐ必要のないもの(例えば検索ヒット上限数200、文字コード順でのソートなど)は引き継いではいない。

Webcatでは実現できていなかった機能として、「所蔵一覧の高機能化」がある。図書館業務システムのILL業務機能では実現されている都道府県・地域・ILL種別で所蔵一覧を絞り込む機能である(図3)。利用者の探し求める資料について、自館に所蔵がなく、近隣の図書館の所蔵の問い合わせを受けた場合、今まではカウンターでWebcatの所蔵一覧の図書館名をざっと見て、ご自身の脳内

データベースと照らし合わせて県内・県外等を見分けていたと思うが、CiNii Books のこの機能を使えば、すぐに近隣の所蔵状態について調査・回答をすることができる。



図3 詳細表示画面の所蔵一覧

さらに詳細検索の図書館 ID の項目では参加組織 ID (いわゆる FA 番号) で、自館所蔵のみを検索することもできる (図4)。これは特に海外の日本研究部門を持っている図書館 (NACSIS-CAT に参加しているが、自館 OPAC には日本語書誌を登録することができない) に役立つ機能と考えている。図書館 ID 等の検索条件をブラウザの Cookie に記憶する機能も平成 24 年 9 月にリリースしたので、ぜひお試しいただきたい。



図4 CiNii Books の詳細検索画面

また、CiNii Books の所蔵一覧は各館 OPAC への直接リンク機能を備えている (図3で OPAC のアイコンが黄緑色になっている場合、リンクが形成されている)。NCID をキーにしたリンク形式を NACSIS-CAT/ILL の参加組織情報に記述することで実現できる。これは CiNii を契約していない機関でも可能なので、NACSIS-CAT/ILL 参加館の皆

様にはぜひ登録していただきたい。

登録方法の詳細については NACSIS-CAT/ILL ニュースレター第 33 号 (2011.7.29)³⁾ を参照いただければよいが、1 点注意していただきたいのは、CiNii Books のデータは、土曜の業務終了時の NACSIS-CAT のデータを翌月曜日未明に反映するという点である。参加組織情報を修正しても即時に CiNii Books に反映されリンクが形成されるわけではないので、ご注意ください。

CiNii Books から OPAC への直接リンクを形成するには、参加組織情報の POLICY フィールドに下記形式の記述を追加する。
 OPACURL:http://XXX.XXX.XXX/XXX?
 ncid=<NCID>
 ※ <NCID> の部分が実際の書誌 ID に変換される。

この NACSIS-CAT/ILL の参加組織情報だが、機関名称は日本語項目しかない。CiNii Books で英語画面に切り替えても、機関名称が日本語のままでは海外ユーザー (特に日米 ILL、日韓 ILL の ILL Staff) にはどこの機関であるかがわからない。同じく参加組織情報をメンテナンスすることで、CiNii Books の英語画面で、適切な英語名称を表示することができる。ために自館の組織名称が、CiNii Books の英語画面でどのように表示されるのかご確認いただきたい。英語画面への切り替えは画面右上の「English」をクリックすることで行える。もし、日本語名称のままだったら、NACSIS-CAT/ILL ニュースレター第 34 号 (2012.1.10)⁴⁾ を参照の上、ぜひ修正いただきたい。

CiNii Books の一つ目のタブは通常の「図書・雑誌検索」機能だが、二つ目のタブとして「著者検索」機能を備えている。これは NACSIS-CAT で作成している著者名典拠ファイルを検索している。著者名典拠ファイルによって、別名 (夏目漱石の場合は夏目金之助) でも検索することができる。この機能の実装により、著者名典拠レコードの作成、リンク形成の重要性が高まっている。

さて、ここまで CiNii Books の特徴について述

べてきたが、Webcats Plus の位置づけについて疑問に思う方は多いだろう。Webcats Plus は NACSIS-CAT 以外のデータも収録し、検索のアルゴリズムも「連想検索」を取り入れ、「図書発見のツール」としての意味合いを高めていっている。Webcats が担っていた、ある特定の図書・雑誌の所蔵館を正確に調査する機能は CiNii Books が引き継ぎ、Webcats Plus は所蔵に制限されない本を発見する喜びを訴求するツールとして、今後も開発を進めていく。収録しているデータは一部共通しているが、目的の異なるツールとして、今後も Webcats Plus および CiNii Books をご利用いただきたい。

3. 最近の CiNii

平成24年度の4月～6月の主な改修項目は(表2)のとおりである。CiNii Articles、Books の両方で必要な機能については、基本的に同時リリースを心掛けている。

表2 平成24年度の4月～6月の主な改修項目

CiNii Articles	CiNii Books
	所蔵館一覧での自機関優先表示(※)
OPACへのリンク時に、ISSNだけではなくNCIDをキーにすることも可能に(※)	図書・雑誌詳細ページでのOpenURL形式の独自リンク(リンクリゾルバ、OPAC)機能(※)
文献管理ツール(RefWorks、EndNote、Mendeley)への直接書き出し機能	
詳細ページに誤りなどのご指摘をしていただく「問題の指摘」リンク追加	
	図書・雑誌詳細ページに図書の表紙イメージ表示(試行的にGoogle Booksからのデータのみ使用)
ソーシャルメディア連携機能(「Twitter」への投稿ボタンと「Facebook」の「いいね!」ボタン追加)	

※ CiNii Articles 契約機関向け機能

表2のCiNii Articlesのアップデートについて詳細を紹介する。

① OPACへのリンク機能

従来のISSNをキーにしたものだけでなく、NCIDをキーにした検索も可能とした。これに

より、ISSNを持たない雑誌についても、各館のOPACへ利用者を誘導することができるようになった。

② 文献管理ツール(RefWorks、EndNote、Mendeley)への直接書き出し機能

CiNiiは初期のころから、文献管理ツールとの連携を意識していたが、検索結果からファイルを書き出して、それを文献管理ツールへインポートするという、ツーステップが必要な形式だった。今回、主要文献管理ツールへの直接書き出し機能を追加することによって、よりストレスなく、CiNiiの文献情報を管理できるようになった。

③ ソーシャルメディア連携

Twitter、Facebookへの連携ボタンを追加した。システムとしては大きな改修ではないが、公的機関のサービスとしては、インパクトのあった改修と考えている。この機能は、後で読むべき論文の自分メモ、研究者仲間・同僚あるいはゼミ生へ読むべき論文情報を共有する手段の一つとして活用いただけているのではないかと推測している。

④ 問題の指摘リンク追加

詳細画面右下の目立たない位置だが、「問題の指摘」リンクを追加した。論文情報の入力について、NIIでも高い精度を目指し入力を行っているが、誤りをゼロにすることはできない。論文情報の誤りを発見された場合、ぜひ図書館員の皆様からの信頼性のある指摘情報をお待ちしている。

次にCiNii Booksのアップデートについて紹介する。

① CiNii認証の導入

平成23年11月にリリースしたCiNii Booksだが、平成24年4月よりCiNiiの認証を導入した。具体的には、CiNiiを契約している機関内からアクセスした場合、

1) 画面右上に機関名の表示

2) 所蔵館表示リストの一番上に自館所蔵を表示

3) CiNiiArticles の管理者画面で登録した OpenURL 形式のリンクリゾルバ等へのリンク表示

を行うようにした。

② 書影の表示

図書の表紙イメージ、いわゆる書影を表示した。これは試行的に Google Books からのデータのみを利用している。この機能についても、CiNii が外部商用サービスの書影を表示した、ということで、自館 OPAC への書影表示がしやすくなったとの意見もいただいている。

③ CiNii Articles と同じく、文献管理ツール (RefWorks、EndNote、Mendeley) への直接書き出し機能

④ CiNii Articles と同じく、ソーシャルメディア連携ボタンの追加

研究集会での事例報告後も CiNii Articles & Books は改修を続けており、CiNii Books での検索結果一覧画面タイトル順の並べ替え、国外の地域指定検索等の追加、所蔵地域・図書館での絞り込み設定の保存、CiNii Articles と Books を切り替えた際の検索キー引き継ぎ等の改修を行った。改修内容については、都度 CiNii のお知らせへ掲載し (RSS での取得も可能)、登録ユーザーへもメールでお知らせしている。

広報面では、CiNii は、公式 Twitter アカウントを取得し、情報発信および取得を行っている。CiNii アカウントの中の人である我々は、Twitter 上の CiNii に対する評価を常にチェックしている。CiNii はこれからも改善を続けていくので、改善すべき点があれば指摘いただきたい。

なお、CiNii 公式 Twitter アカウントは @cinii_jp である。フォローおよびツイートいただければ幸いである。

既にほとんどの図書館員が自覚していると思うが、学生は本を探す際に、自館 OPAC は検索せず、検索エンジンを使用する傾向がある。(あるいは友人・先輩に聞く、書店に行く。)

CiNii Books の情報は検索エンジンでもヒット

するので、多少願望も入るが、以下の流れを作ることが可能だろう。

1. 学生が検索エンジンで図書のタイトルで検索。
2. CiNii Books の書誌情報が検索エンジンの上位にヒットする。
3. 当該学生の所属機関が CiNii を契約しており、かつ参加組織情報に OPAC へのリンク情報を記載していた場合、所蔵一覧の最上位に自館所蔵および OPAC へのリンクが表示される。
4. 学生は検索エンジン → CiNii Books → 自館 OPAC → 図書館の現物にたどり着く。

このような流れは机上の空論かもしれないが、可能性はゼロではない。参加組織情報に登録するのは5分もかからない作業である。ぜひ、自館の登録状況を確認し、未登録の場合は登録いただきたい。

また、各館 OPAC から Webcat へリンクしていた場合は、リンク先を CiNii Books に変更していただきたい。リンク先設定が不明な場合はご利用の図書館システムのベンダー殿にご相談されたい。おそらく、多くのシステムの場合、画面上の名称は Webcat で実際の検索先は NACSIS-CAT の検索専用サーバと思われる。検索専用サーバは平成25年4月以降もサービスを継続するので、検索先の変更は不要だが、OPAC 上で Webcat という名称を使っていたら、CiNii Books あるいは「全国の大学図書館等の所蔵 (NACSIS-CAT)」にでも変更していただきたい。

4. KAKEN 概要

ここまで述べてきた CiNii に比すると利用回数は高くないが、文部科学省・日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業による成果を提供する「KAKEN：科学研究費助成事業データベース <<http://kaken.nii.ac.jp/>>」というサービスがある。

CiNii Articles, Books にて提供されるものは、すでに研究がある程度完了したアウトプットの論文・図書という形式の情報である。KAKEN では、まだ完成していない、まさに研究者が今、研究している課題の情報、つまり日本の最新の研究情報

を得ることができる。

KAKEN の収録データは（表3）のとおりである。例年報告書の形態が変更したりしているので、わかりにくい点があると思う。習うより慣れろということで、検索前に対象種目かどうか等を調べるより、実際に検索をしてみて、思うようにヒットしない場合は例外条件になっているのか、ヘルプの詳細⁵⁾を確認いただいたほうが早いだろう。

採択課題情報は、内定後の4～7月くらいにかけて、KAKEN に登録している。内定時の情報なので、実際に採択された情報とは配分額等が異なる点に注意が必要である。

実績報告は、各年度末に提出される「実績報告書」の紙媒体を元に、パンチ入力を行っている。そのため、紙媒体の提出から KAKEN での公開までタイムラグが発生する。

なお、以前は冊子体の報告書の提出が義務化されており、各図書館にも年度末にまとめておさめられていたかと思うが、平成 20 (2008) 年度より、成果報告書は紙ではなく電子的に提出することになった。KAKEN では電子的に提出された成果報告書・自己評価報告書の PDF を収録している。

CiNii を使ったことはあるが、KAKEN は使ったことがない、という方は図書館員にも多いだろ

う。ぜひ一度実際に KAKEN にアクセスし、検索をしてみたい。キーワードが思いつかない場合は、まず自機関の研究者がどのような科研費を取得しているのかをしてみるのがよいだろう。詳細検索で、研究機関項目欄に「/○○大学/」と機関名を/ (すらしゅ) で囲んで「研究課題検索」をクリックし、研究機関名を完全一致検索すればよい (図5)。

自機関の教員について、シラバス (教育面) ではわからない、研究者としての顔を垣間見ることができるだろう。



図5 KAKEN の詳細検索画面

研究課題検索を実行すると、課題情報の検索結果一覧画面となる。そこから課題名をクリックす

表3 KAKEN 収録データ

データ種別	収録対象年	内容	備考
採択課題	1965～	当該年度の当初採択データ。 ・配分額は採択時のもの。 ・研究分担者情報は無。	研究種目・年度により、当初採択外データが含まれる場合有。 平成7 (1995) 年以前は追加採択分データ未収録有。
実績報告	1985～	各年度末に当該年度の実績を報告する「実績報告書」のデータ。 研究概要と当該研究による発表文献のリスト有。	・奨励研究 (A) は平成4 (1992) 年以前は未収録。 ・奨励研究 (B) は収録していない。
成果概要	1985～2007	研究の最終年度に報告される「研究成果概要」のデータ。	「研究成果報告書」を提出する研究種目のみ。 平成19 (2007) 年度で廃止。
成果報告書	2008～	平成20 (2008) 年度からの新様式の「研究成果報告書」のデータ。 PDF ファイル形式の本文も公開。	「特別推進研究」等が対象種目。
自己評価報告書	2008～2010	平成20 (2008) 年度から導入された「自己評価報告書」のデータ。 PDF ファイル形式の本文も公開。	「特別推進研究」等が対象種目で、研究の3年目に提出。 平成22 (2010) 年度で廃止。

詳細は <http://kaken.nii.ac.jp/ja/help/about.html#title3> 参照

ると、研究課題ページへと遷移する（図6）。



図6 KAKENの研究課題ページ

研究課題ページには、研究代表者、研究分担者、研究課題の個別ドキュメント（年度毎の採択課題情報、研究実績報告書等）へのリンク、研究課題基本情報（研究期間、配分額等）が表示される。個別ドキュメント：報告書（図7）には発表論文リストがあり、CiNii Articles、CrossRefと合致する論文については、NIIにて論文情報の同定処理を行い、リンクを設定している。この同定処理にはNII相澤彰子教授が開発したi-linkageというシステムを活用している。



図7 KAKENの個別ドキュメントページ

KAKENトップページから、「研究者検索」を実行あるいは、研究課題ページから研究者名をクリックすると、研究者ページに遷移する（図8）。



図8 研究者ページ

組織を異動しても科研費の研究者番号は変わらないため、研究者番号によって、研究者の同定を行うことが可能である。研究者ページはその研究者の科研費の履歴をたどることができるページであるため、研究者自身もよくチェックをしているようで、このページへの修正依頼はここ数年増加している。ただ、KAKENの研究者ページに掲載する研究者の経歴は、科研費の採択・報告時のものであるため、異動・昇任情報を即時に反映する研究者の業績データベースとは性質が異なる。そのため、ご連絡いただいてもほとんど修正できないケースであることが多いのが現状である。

5. 最近のKAKEN

ここ最近のKAKENの変更点についてご紹介する。

基金化に伴う科研費の事業名変更に伴い、KAKENの名称を「KAKEN 科学研究費補助金データベース」から「KAKEN 科学研究費助成事業データベース」に変更した。もし図書館Webサイト等からリンクを形成している場合は、名称の変更をお願いしたい。

また、平成24年6月に、詳細検索に「報告書PDF全文」のオプションを追加した。このオプションにより、簡易検索のフリーワードや、詳細検索の他の項目では検索できない、報告書(PDF)にしか記載されていない研究の「背景」「目的」「方法」「成果」等を検索することができる。

例えば、簡易検索のフリーワードに「ジャーナリストロボット」というキーワードを入力し、研究課題を検索すると、2件ヒットした（これらを課題A、課題Bとする）。同じ「ジャーナリストロボット」というキーワードで今度は詳細検索の「報告書 PDF 全文」オプションで研究課題を検索すると2件ヒットする（これらを課題B、課題Cとする。）が、うち1件は簡易検索でヒットしなかったものである。（平成24年10月1日現在）

なお、ノイズを防ぐためあえてフリーワードではPDF全文は検索対象としていない。簡易検索、詳細検索の他の項目でうまくヒットしない際に、このオプションを活用するとよいだろう。

この全文検索をストレスのない速度・精度で実行するため、KAKENの検索エンジンを一新した。インタフェースはほとんど変更を加えていないが、検索結果のURLなどが以前のシステムから変更している。なお、旧URLから新URLへはジャンプするよう設定しているため、以前個別のページにブックマークしていた場合でも、リンク切れは発生しない。

6. 今後のNII学術コンテンツサービスの方向性

ここまで、CiNii、KAKENの具体的な直近の改修について述べてきたが、その根底となるNII学術コンテンツサービスの方向性について述べたい。

① 本文到達率のさらなる向上

永遠の課題と認識している。機関リポジトリで収集している論文系以外の本文とCiNii BooksやKAKENとの連携など、まだ打つべき手はあるので、地道に本文・本文リンク情報を収集し本文到達率の向上につなげていく。

② 「Webサービス」としてのさらなる自覚

マニュアルを見なくても、画面を見て直観的に操作がわかるサービスを目標としている。検索エンジンや書籍販売サービスのサイトがよく使われるのは、その操作性のわかりやすさにもよる。人のわかりやすさに加えて、機

械が使いやすい（システム間連携がされやすく、さらに人に使われる）インタフェースを意識して設計・開発を行っている。

③ サービス間の連携、融合、再編

ヒト（＝研究者、著者）の識別が重要と考えている。学術情報を生産するのはヒトであり、研究者・著者について共通の識別IDをもち、各サービス（研究者の書いた本、論文、研究課題、業績等粒度の異なるもの）を串刺しにし、意味のある紐付ができるしくみが必要である。

今後もNII学術コンテンツサービスは進化を続ける。進化論にもあるが、生き残るのは強いものではなく、変化に対応できるものである。世界・日本の学術を取り巻く情勢は刻々と変化を遂げている。変化に対応するため、進化するために、ぜひ皆様からのご意見・ご助力をより一層お願いしたい。

注

1) CiNii Articles ヘルプ - マニュアル - 修正指摘画面について。

http://ci.nii.ac.jp/info/ja/articles/manual_feedback.html [accessed 2012-10-01]

2) CiNii ヘルプ - メタデータ・API

http://ci.nii.ac.jp/info/ja/api/api_outline.html [accessed 2012-10-01]

3) CiNii 図書・雑誌検索 (Books) からの図書館OPACへの直接リンクについて. NACSIS-CAT/ILL ニュースレター第33号 (2011.7.29)

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/PUB/nl2/No33/003P.htm> [accessed 2012-10-01]

4) 参加組織情報のメンテナンスについて. NACSIS-CAT/ILL ニュースレター第34号 (2012.1.10)

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/PUB/nl2/No34/003P.htm> [accessed 2012-10-01]

5) KAKEN サービス概要 - データ種別について.

<http://kaken.nii.ac.jp/ja/help/about.html#title3> [accessed 2012-10-01]

新図書館構築にあたっての工夫と今後の中央図書館の展望

愛知学院大学図書館情報センター

足立 祐輔

はじめに

平成24年8月2日(木)に中京大学・ヤマテホールにおいて行われた第66回東海地区大学図書館協議会研究集会において「新図書館構築にあたっての工夫と今後の中央図書館」と題する事例報告である。今回の事例が現在進行中のことから鑑み、本稿はその報告に一部加筆・修正したものである。

愛知学院大学は、平成25年4月に経済学部を新設し、来る140周年(平成28年度)を視野に、さらなる飛躍をめざして、名城公園キャンパス事業を開始した。名城公園キャンパスは、平成26年4月に誕生する。新設の経済学部、従来の商学部、経営学部を加えたビジネス系3学部で、2年次生以上の専門教育を平成26年度から新キャンパスで行う。

愛知学院大学図書館情報センターではこれを機に、高度情報化社会に適合したさらなる図書館づくり、21世紀の大学の教育・研究を支援できる未来型大学図書館活動の展開を考えている。名城公園キャンパスの整備コンセプトを踏まえ、名城公園図書館(仮称)は、実践的な魅力ある大学の教育・研究を促進させる場所として、併せて近隣の市民の皆さんの興味を高めるような存在として、注目される図書館を構築することを目標としている。

現時点では全くの私案であるが、「新図書館構築にあたっての工夫と今後の中央図書館の展望」をお話したいと思う。今後の皆様方の図書館業務において、少しでもご参考になれば幸いである。

1. 愛知学院大学図書館情報センターの現状について

(1) 旧附属図書館の概要

附属図書館は、昭和25年4月愛知学院短期大学

商学科、翌年4月に文科が設置された際に旧制愛知中学時代の蔵書(特に仏教関係図書)も一部引継ぎ、短期大学附属図書館として楠元学舎(現名古屋千種区楠元町)に開設された。昭和28年4月に4年制の愛知学院大学商学部が設置されるに及んで、愛知学院大学附属図書館と称せられるようになった。

昭和41年10月、愛知学院創立90周年を記念して近代的設備を備えた図書館が楠元学舎に完成した。その後、この90周年を起点として、10年後に迎える創立100周年を目標に名古屋の東郊日進の地への大学移転が計画され、昭和49年、歯学部を除き、すべての学部と大学院が移転し、ここに新たに愛知学院大学日進学舎がスタートすることになった。楠元学舎の図書館は改組し歯学部分館(平成17年4月から歯学・薬学図書館情報センターに名称を変更)とした。

昭和49年3月、日進の新キャンパスに中央図書館が完成した。図書館総面積は9,903㎡地下1階地上3階の閲覧棟(現在、本館と称しているところ)と書庫棟(積層式6層)に分かれ、書庫棟の蔵書収容冊数は100万冊である。総座席数は約1200席あり、当時としては、かなり大規模な図書館であった。

(2) 図書館情報センターの概要

平成16年4月に愛知学院大学の図書館情報センター新館が完成した。なお、新館完成に引き続き本館改修工事が行われ、同年9月には改修工事も終了し、情報機器を大幅に導入した21世紀の新しい情報化社会に対応する新図書館として、10月に新しい図書館情報センターがオープンした。現行の図書館情報センター概要については、以下の項目を参照されたい。

1) 施設・設備

- ①地下1階地上3階及び書庫棟、閲覧室延床面積 9,698㎡書庫棟延床面積 4,262㎡（蔵書収容冊数約115万冊）、合計13,960㎡。地下1階：図書館庶務・資料整理部門、マイクロフィルム保管室、貴重資料室、会議室。1階：閲覧室・展示室・ブラウジングコーナー・情報検索コーナー・リフレッシュコーナー。2階：閲覧室・参考図書コーナー・レファレンス。3階：雑誌室・視聴覚学習センター・閲覧室。
- ②閲覧総座席数は、1,484席（多目的ホール90席含む）。
- ③コンピュータ端末は、業務用24台、利用者用端末73台（うち情報検索コーナーに42台、書庫6台）、レファレンス用専用端末3台、各種ROM専用端末1台。

2) 図書館蔵書数

平成24年3月31日現在（研究所等も含む）。和書：624,331冊、洋書：260,623冊合計：884,954冊。学術雑誌：11,079種、外国雑誌：4,045種、合計：15,124種。視聴覚資料：30,506点、電子書籍：1点。

3) サービス内容

①資料の貸出

学生：5冊30日間、大学院生：15冊60日間、教職員：50冊180日間、一般開放：3冊14日間。

②相互貸借業務

③レファレンスサービス

④インターネット文献検索サービス

⑤学生購入希望図書サービス

参考データ（平成23年度実績）：開館日数275日、年間館外貸出冊数：約57,000冊、一日あたりの入館者数平均約1,002人。

4) 図書館情報センターの組織

館長1名、役職者（事務系）3名うち事務長1名、事務長補佐1名、主任1名、事務職員4名、学生アルバイト（情報検索コーナーTA）1名、業務委託関係：閲覧系17人口（LCO株式会社）、整理系4人口（丸善株式会社）。庶務業務：庶務、経理、文書管理、資料の発注、司書講習事務、集書、その他全般に関わる業務。整理業務：資料の検

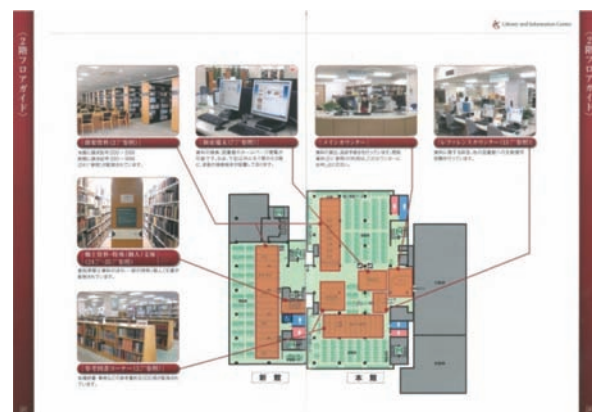
収、和・洋図書、雑誌及び視聴覚資料の整理、システム情報担当。閲覧業務：資料の閲覧・貸出・返却の出納業務、相互貸借、レファレンスワーク、未製本雑誌の配架、研究所への資料貸出、新聞の整理保管など。視聴覚学習センター業務：視聴覚資料の閲覧、ホール等利用者の対応、各種視聴覚機器の管理。



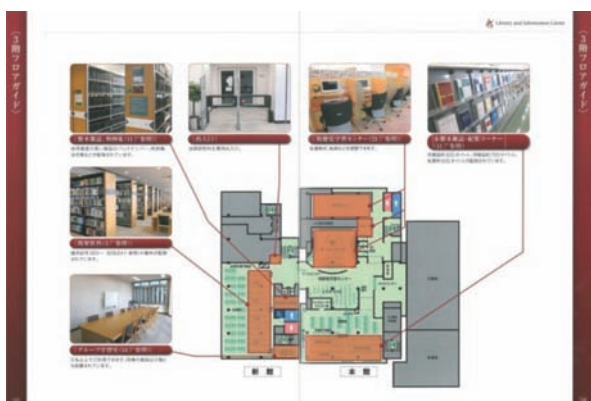
愛知学院大学図書館情報センター概観



1階フロア図



2階フロア図



3階フロア図

2. 名城公園図書館基本計画案について

このことについて、図書館情報センターではこれを機に、高度情報社会に適合したさらなる図書館づくり、21世紀の大学の教育・研究を支援できる未来型大学図書館活動の展開を考えている。

名城公園キャンパスの整備コンセプトを踏まえ、名城公園図書館は、実践的な魅力ある大学の教育・研究を促進させる場所として、併せて近隣の市民の皆さんの興味を高めるような存在として、注目される図書館を構築することを目標としている。個々の項目については以下の通りである。

- (1) 経済系大学図書館の象徴としての、実践的データベースの導入（予定）
 - 1) SPEEDA（実戦向け企業分析DB）。
 - 2) 日経 NEEDS（企業財務情報DB）。
 - 3) AFPWordAcademicArchive（フランスAFP通信社提供の報道写真・映像のDB）。
 - 4) 東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー（経済・企業情報DB）。
 - 5) Web of Science Social Sciences Citation Index（書誌・引用DB）。
- (2) 近隣住民を意識した図書館の構築
 - 1) 開館時間（日進と同様の20時までの開館：愛知県図書館と同じ）。
 - 2) 近隣住民に対する図書館開放（秋学期から）。
 - 3) 教養的な文庫本の新規購入（約5,000冊）。
 - 4) 仏教書の新規購入（禅宗を中心に専門書約1,000冊）。

(3) 図書館棟

地上4階：1～2階が図書館部門、3～4階が情報施設部門。図書館部門予定面積約2,000㎡。

地上2階（2階が図書館メイン出入口：1階がサブ出入口）。図書館総座席数178席（グループ学習室含む）。

1階：図書館サブ出入口、サブカウンター、開架スペース（仏教書、商・経営・経済関係書など：約8万冊収容）、雑誌スペース（約500タイトル収容）、グループ学習室、閲覧席など。

2階：図書館メイン出入口、メインカウンター、ブラウジングコーナー、参考図書コーナー（約5,000冊収容）AVコーナー、文庫コーナー（約1万冊収容）、情報検索室など。

(4) 図書館利用者対応関係

想定利用者数（約3,400名）。

学生数：2,353名（大学院含む）。

商・経済学部 250名×3学年×2学部

経営学部 290名×3学年。

編入：商・経営 14名×2学年。

大学院修士：商・経営 50名×2学年×2研究科。

大学院博士：商 15名 経営 30名。

教職員他：約1,000名（近隣住民利用者含む）。

(5) 蔵書関係

開架収容数：約30,000冊（AV資料は別で7,000本）。集密書架収容数：約65,000冊。

1階を集密書架の書庫形式とし、2階（一部1階）フロアを中心に開架書架とし、利用者が自由に閲覧できるようにする。

新規購入分：商・経営・経済関係図書約5,000冊、法律関係図書など約1,000冊、仏教関係書など約1,000冊、文庫・新書など約5,000冊、参考図書約1,000冊、その他分野約1,000冊、視聴覚資料約1,000本、合計約15,000冊予定。

既存蔵書分：関係教員に、現在の日進図書館情報センターにて開架及び閉架図書ビジネス系図書を中心に名城公園図書館に必要な図書・視聴覚資料について選択してもらおう。現在、商・経営学部の附置の3研究所の資産図書等約20,000万冊（製本雑誌含む、ただし各研究所で収集したものを除く）は集密書架へ移動し利用することを想定している。

(6) インターネット環境

基本的には無線 LAN による環境を設定、閲覧席・グループ学習室などにも一部有線 LAN 設置。

(7) 各3キャンパス（日進・楠元・名城公園）図書館間の連携

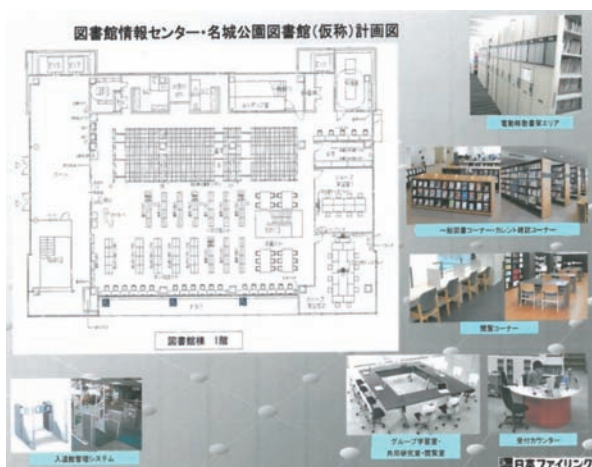
ブックスキャナーを使用してのインターネット送信を実施することにより、よりスピーディなサービスが展開可能である。さらに、3キャンパス間による定期的な資料の搬送（1日2便：図書館直通便）が実現できれば、100万冊以上の本学蔵書が有効活用されると考えている。

(8) スタッフ要員等

全面業務委託（法人からの決定事項）。夜間の開館延長対応含業務も含む。日進キャンパスの図書館情報センターにて閲覧業務を委託している委託会社による契約が、運用上最も望ましいと考えている。



愛知学院大学名城公園キャンパス概観
（左から講堂棟、高層棟、図書館棟、食堂等）



名城公園図書館1階フロア案



名城公園図書館2階フロア案

3. マガジンカフェ構想について

このことについては、現時点において、あまり詳しくお話できないのが残念である。名城公園図書館が手狭であるのでその解決策の一つでもあり、なお且つ、近隣のビジネスマンに対しても、情報と心地よい環境を提供できることになると考えている。

マガジンカフェは食堂等の2階（隣に隣接）に計画されており、コーヒーを飲みながら世界のビジネス誌を閲覧する空間を設定している。設置雑誌の種数は約100種（国内が約70種、海外が約30種）予定している。

4. 中央図書館の書庫増設と一部改築構想について

このことについても、今後の予定であり、現在も法人本部と継続して検討していることである。

名城公園図書館は、日進キャンパスの図書館情報センターの分館的な図書館となると考えている。名城公園図書館は、閲覧機能を中心とした図書館となる。庶務的業務機能、整理的業務機能ならびにILLについては、図書館情報センターにおいて行う体制を想定し、計画している。

さらに、保存書庫のスペースはなく、今後10年以内に配架スペースの問題が生じてくることは明らかである。

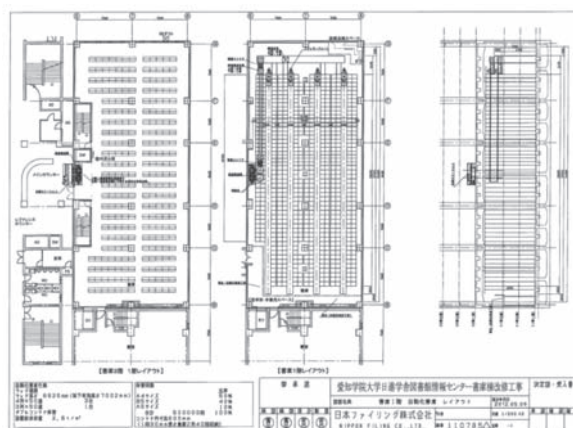
現在、中央図書館である図書館情報センターの

書庫の収容冊数 100 万冊に対して、約 63 万冊を収蔵している状況である。書庫は、旧書庫（収容能力 60 万冊）、新書庫（収容能力 40 万冊）と二つの書庫があり、書庫を増設するのは、旧書庫である。旧書庫（6 層）の半分の 3 層部分であり、その部分を全面改築して、自動化書庫を導入することを考えている。現行の 60 万冊収容能力を 30 万冊分アップし、90 万冊の収容能力にする計画である。現在、開架の 15 万冊を含め、合計 115 万冊収容能力を 145 万冊収容能力にすることを目標にしている。

中央図書館の保存書庫機能を充実させることにより、名城公園図書館にて、利用頻度の低い図書資料を中央図書館に移動しスペースを確保できる環境を整えることが可能となるのである。さらに、それら移した図書資料が必要な時には、図書館専用便にて、その日のうちに手元に届くという仕組みを構築する予定である。



旧書庫および新書庫



自動化書庫案

おわりに

以上、愛知学院大学図書館情報センター・名城公園図書館構築にあたっての基本構想を説明したが、これは現段階では私案であり、今後、法人と事務および予算折衝をしながら進めて行くことになるのである。なお、関係学部・研究所への説明などもこれからの重要な事項である。今後、具体的に準備を進めて行く過程においても、可能な限り、様々な工夫をして、利用者の期待に応えるべく、素敵な大学図書館にしたいものである。

備考

名城公園図書館フロア案図面および自動化書庫案図面提供：日本ファイリング（株）

行 事

第 66 回（2012 年度）東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会

【 総会の部 】

日 時： 平成 24 年 8 月 2 日（木）10:30 ～ 11:50

会 場： 中京大学 ヤマテホール

総会当番館： 中京大学図書館

出 席 者： 51 大学 79 名

図 書 館 名		職 名
<input type="checkbox"/> ■ 岐阜県 ■ <input type="checkbox"/>		
1	朝日大学図書館	係長
2	岐阜大学図書館	医学図書館係長
3	岐阜医療科学大学図書館	司書
4	岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパス図書館	主査
5	岐阜女子大学図書館	図書館員
6	岐阜市立女子短期大学附属図書館	図書館嘱託職員
7	中部学院大学附属図書館	館長
8	東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館	司書係長
<input type="checkbox"/> ■ 静岡県 ■ <input type="checkbox"/>		
9	静岡大学附属図書館	図書館情報課長
		副課長
10	静岡県立大学附属図書館	主幹
11	静岡県立大学短期大学部附属図書館	参事兼事務長
12	静岡産業大学図書館	司書
13	静岡文化芸術大学図書館・情報センター	主査
14	東海大学付属図書館清水図書館	課長
15	東海大学付属図書館沼津図書館	係長
16	東海大学短期大学部図書館	係長
17	浜松医科大学附属図書館	学術情報課長
<input type="checkbox"/> ■ 愛知県 ■ <input type="checkbox"/>		
18	愛知大学図書館	豊橋図書館課長
		名古屋図書館課長
19	愛知学院大学図書館情報センター	事務長
		業務委託統括マネージャー
		業務委託会社社長
	愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター	事務職員
20	愛知教育大学附属図書館	附属図書館長
		情報図書課長

	図 書 館 名	職 名
21	愛知県立大学学術情報センター	図書情報課長
		契約職員
22	愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館	図書情報係長
23	愛知工業大学附属図書館	係長
24	愛知淑徳大学図書館	図書館事務室長
		部門スタッフ
		事務員
25	愛知文教大学附属図書館	司書
26	金城学院大学図書館	課長
27	自然科学研究機構 岡崎情報図書館	総務部総務課情報サービス係長
28	椋山女学園大学中央図書館	図書館課長
29	星城大学図書館	司書
30	大同大学図書館	図書館室長
31	中部大学附属三浦記念図書館	課長
		担当課長
		課長補佐
		事務職員
32	東海学園大学図書館	課長代理
33	豊橋技術科学大学附属図書館	情報サービス係長
34	名古屋大学附属図書館	附属図書館長
		事務部長
		情報管理課長
		情報管理課長補佐
		情報サービス課閲覧掛
		情報サービス課参考調査掛
		情報サービス課参考調査掛
		情報サービス課相互利用掛
		理学部・理学研究科・多元数理科学研究科図書掛長
35	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	図書館長
		課長
36	名古屋学院大学学術情報センター	課長補佐
37	名古屋経済大学図書館	書記
38	名古屋芸術大学附属図書館	東キャンパス図書室長
		西キャンパス図書室長
39	名古屋工業大学附属図書館	チームリーダー
40	名古屋女子大学学術情報センター	課長補佐
41	名古屋市立大学総合情報センター	学術情報担当主査
42	名古屋文理大学図書情報センター	主任

図 書 館 名		職 名
43	南山大学図書館	図書館長
		図書館事務課長
		専任嘱託
44	日本赤十字豊田看護大学図書館	図書館長
45	人間環境大学附属図書館	司書
46	藤田学園医学・保健衛生学図書館	司書課長
<input type="checkbox"/> ■ 三重県 ■ <input type="checkbox"/>		
47	皇學館大学附属図書館	事務長
48	三重大学附属図書館	学術情報部 情報図書館課長
49	三重県立看護大学附属図書館	統括
50	三重短期大学附属図書館	担当副主幹
<input type="checkbox"/> ■ 当番館 ■ <input type="checkbox"/>		
51	中京大学図書館	図書館長
		事務室長
		係長
		豊田図書館事務室長
		豊田図書館事務室課長

総 会 議 事 要 録

I 開会

II 挨拶

中京大学学長 北川 薫
東海地区大学図書館協議会長 佐野 充

III 議長選出

中京大学図書館長 佐藤 隆

IV 報告事項

1 平成 23 年度事業報告

事務局から平成 23 年度の事業について次のとおり報告があった。

(1) 第 65 回 (2011 年度) 総会

平成 23 年 8 月 2 日 (火)

会場：名古屋市立大学 病院ホール

総会当番館：名古屋市立大学総合情報センター (44 大学 64 名参加)

1) 報告事項

平成 23 年度事業報告, 平成 23 年度決算報告・同監査報告, 国公立の各大学図書館の活動状況, 当面の課題等について (名古屋大学, 愛知県立芸術大学, 中京大学)

2) 協議事項

平成 24 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) について, 平成 24 年度総会当番館について, 東海地区図書館協議会の事業について, 永年勤続者表彰 (11 名)

(2) 研究集会

平成 23 年 8 月 2 日 (火)

テーマ「大学図書館における人材育成」

基調講演

「ドラッカー流 夢実現の方程式」

SOKEN 宗初末研究室代表 宗 初末

事例報告

「業務委託の推進と専任職員育成の課題」

愛知学院大学司書課程非常勤講師

作野 誠

(3) 研修会

1) 図書館職員基礎研修 (第 3 回)

平成 23 年 12 月 15 日 (木)

会場：名古屋大学

研修担当館：名古屋大学

(28 大学・機関 43 名参加)

講義

「大学図書館職員に求められているもの」

加藤信哉

「資料の収集～目録・分類」

河谷宗徳

「電子情報 (電子ジャーナル, データベース等)」

堀 友美

「ILL」

万波涼子

「プレゼンテーション入門」

近田政博

「カナダの大学図書館事情」

ゴードン・コールマン

2) 第 2 回

テーマ「災害時における危機管理」

会場：名古屋大学

研修担当館：豊橋創造大学

平成 24 年 3 月 8 日 (水)

(77 名参加。内加盟館 36 機関 71 名, 加盟館外 6 機関 6 名 (内公共図書館から 3 名))

事例報告 1

「そのとき私たちができたこと - 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災 -」

講師：小陳左和子 (東北大学附属図書館情報サービス課長)

事例報告 2

「私の東日本大震災体験 - 図書館の被害と復旧を中心として」

講師：和知 剛 (郡山女子大学図書館司書係長)

(4) 「東海地区大学図書館協議会誌」56 号

平成 23 年 12 月 25 日 (日) 発行

(5) 運営委員会等

1) 監事会 (平成 24 年度、平成 24 年 6 月 19 日 (火)、会場：名古屋大学)

監事館：愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学

2) 機関誌編集委員会 (平成 24 年度、平成 24 年 7 月 2 日 (月)、電子メールによる審議)

3) 運営委員会（平成 24 年度、平成 24 年 7 月 11 日（水）、会場：名古屋大学）

3 平成 23 年度決算報告・同監査報告

事務局から、平成 23 年度の決算について報告があり、続いて、監事館を代表して愛知県立芸術大学から、監査の結果、経理は正確に処理されていることを確認したとの報告があった。

平成 23 年度の決算報告について、報告のとおり承認された。

4 国公立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について

国公立の各協議会の理事校・幹事校（名古屋大学、愛知県立芸術大学、中京大学）から報告があった。

VI 協議事項

1 退会館について

事務局から、三重中京大学から退会の申請があったとの説明があり承認された。

2 平成 24 年度役員館について

事務局から、役員館の選出方法について説明があった後、会長館の選出に移り、立候補がないため、推薦により名古屋大学が選出された。また、機関誌編集委員会を会長館が後日指名する他は、選出母体からの推薦による候補館が承認された。

3 平成 24 年度事業計画（案）および予算（案）について

事務局から、平成 24 年度事業計画（案）および予算（案）について説明があり、協議の結果、提案どおり承認された。

4 平成 25 年度総会当番館について

第 67 回（平成 25 年度）総会・研究集会の当番館として静岡大学附属図書館が選出された。

VIII 永年勤続者表彰

平成 24 年度の永年勤続者として 9 名が表彰された。

- 山本 祐子（朝日大学図書館）
- 高島 学（名古屋大学附属図書館）
- 米津 友子（名古屋大学附属図書館理学図書室）
- 小塚 道代（名古屋大学附属図書館）

- 鈴木 倫子（名古屋大学附属図書館国際開発図書室）
- 河谷 宗徳（三重大学附属図書館）
- 樋本 洋子（三重大学附属図書館）
- 高井真珠代（中部大学附属三浦記念図書館）
- 山田 幸代（中部大学附属三浦記念図書館）



永年勤続表彰

VIII 閉会

【研究集会の部】

日 時：平成 24 年 8 月 2 日（火）13:00～16:00

会 場：中京大学ヤマテホール

テーマ：「大学図書館の有効利用－この一工夫が大切だ－」

事例報告

「もっと使える最近の NII 学術コンテンツサービス－ CiNii, KAKEN を中心に－」

国立情報学研究所学術基盤推進部

学術コンテンツ課コンテンツチーム係長

服部 綾乃

事例報告

「新図書館構築にあたっての工夫と今後の中央図書館の展望」

愛知学院大学図書館情報センター事務長

足立 祐輔



平成 24 年度予算

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

科 目	前年度 決算額 a	本年度 予算額 b	前年度決算額 よりの増△減 b - a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	1,397,491	1,527,494	130,003	
2. 会 費	445,000	440,000	△ 5,000	平成 24 年度分： @ 5,000 × 88 館 = 440,000
3. 会誌売上費	452,000	464,000	12,000	56 号分：@ 2,000 × 6 部 = 12,000 57 号分：@ 2,000 × 226 部 = 452,000
4. 雑 収 入	456,500	365,000	△ 91,500	協議会誌広告掲載料 57 号分
5. 預 金 利 息	212	212	0	
計	2,751,203	2,796,706	45,503	

* 前年度繰越金を除く本年度の収入額 1,269,212 円

科 目	前年度 決算額 c	本年度 予算額 d	前年度決算額 よりの増△減 d - c	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	100,000	100,000	0	第 66 回総会（中京大学）
2. 研究集会補助金	72,860	35,000	△ 37,860	講師謝金（2 名） （加盟館職員、加盟館外講師）
3. 研 修 会 費	323,746	180,000	△ 143,746	当番館経費（名古屋大学，三重大学）， 講師謝金等（2 回分）
4. 源泉所得税納付	43,268	24,000	△ 19,268	研究集会，研修会での講演料，原稿料に 対して
5. 会誌刊行費	543,585	600,000	56,415	57 号 310 部
6. 役員会経費	4,050	10,000	5,950	運営委員会ほか役員会等
7. 事 務 費	22,050	30,000	7,950	事務用品等
8. 通 信 費	58,410	60,000	1,590	会誌送付等郵便料金
9. 表 彰 記 念 費	55,740	40,000	△ 15,740	永年勤続表彰者 7 名の記念品 （ネーム印付きボールペン）等
10. 予 備 費	0	1,717,706	1,717,706	
11. 次年度繰越金	1,527,494	0	△ 1,527,494	
計	2,751,203	2,796,706	45,503	

* 予備費を除く本年度の支出額 1,079,000 円

愛知大学名古屋図書館

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番6

<http://library.aichi-u.ac.jp/>

2012年4月に開校した愛知大学新名古屋キャンパスは、名古屋市が再開発計画を進めている「ささしまライブ24地区」にある。このエリアは名古屋駅から南に約1kmという都心部に位置している。新名古屋キャンパスには、旧名古屋キャンパス（みよし市）にあった法学部（2年生以下）・経営学部・現代中国学部の3学部、車道キャンパスにあった法学部（3年生以上）、さらに豊橋キャンパスにあった経済学部・国際コミュニケーション学部が移転し、5学部約7,000名の学生の新たな学びの場となっている。

新名古屋キャンパスには、講義棟及び厚生棟の2棟があり、新図書館は厚生棟の1階から3階に位置している。新図書館の蔵書構成は、旧名古屋図書館から法・経営及び中国関係の資料を移転したうえで、豊橋図書館から経済・国際コミュニケーション関係の資料を移転した。延べ床面積は約4,650㎡、収蔵数能力は約36万冊、座席数900席の施設となっている。

新図書館は、①新キャンパスのシンボリック存在、②図書館の学習支援機能を強化、③環境に配慮した設備、を目指した。その条件のもと、1階から3階までフロア毎にゾーニングを行った。

図書館の1階は、一見カフェと見間違えるほど明るく開放的なスペースとなっていて、学生が入りやすく、賑わいのある空間としての役割を持たせている。入館ゲート近くにある最新式の電動書架には、比較的学生が手に取りやすい言語関係や文学書、あるいは新書・文庫などを配架した。最新式の電動書架は、学生たちにとっては珍しいようで、新入生の女子学生からは「ハリーポッターの魔術」のような操作感があるとの感想をもらっている。またラーニング・ commonsの要素を取り

入れたディスカッションルームは常に学生たちが集う場となっている。木目調の台形机と赤い椅子、ローパーティションの機能をもったホワイトボードを自由自在に組み合わせることができ最適なグループ学習環境となっている。さらに1階カウンターでは、ノートパソコンの貸出サービスを行っており、大変多くの学生が利用している。

図書館2階には、参考図書・一般図書が配架されている。書架の間隔は非常に広く、車椅子が通っても余裕がある。そのため図書が手に取りやすいと、利用者には好評である。

図書館3階には、大学院生や研究者が主に利用する専門性の高い図書（中国書含む）・雑誌を配架した。各種学術雑誌は和雑誌だけでなく洋雑誌・中国雑誌が計約2000誌ある。また個人ブースを用意し、より集中して学習・研究をする用途に利用されている。さらに環境に配慮し、閲覧机や椅子を再利用していることや、一部の閲覧机でLED照明を使用している。

新図書館は、まだまだ発展段階である。東海地区の皆さまのご意見を伺いながら、新しい大学図書館環境を提供していきたい。



新名古屋図書館1階スペース

会 則 等

東海地区大学図書館協議会会則

(名 称)

第1条 本会は、東海地区大学図書館協議会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、東海地区大学図書館の発展を図ると共に、図書館員の教養と技術の向上及び相互の親睦をはかることを目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、前条の目的に賛同する東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の国立、公立、私立の大学図書館その他これに準ずる図書館を以て組織する。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達するために、次の事業を行う。

- 一 会員相互間の連絡提携
- 二 図書及び図書館に関する研究会、講習会、展覧会等の開催並びに後援
- 三 図書館運営に関する相談、指導
- 四 機関誌の発行
- 五 その他必要と認める事業

(会 長)

第5条 本会に会長を置く。
2 総会において会長館を選出し、その会長館の図書館長が会長となる。
3 会長の任期は、2年とする。但し、重任を妨げない。

(委員会)

第6条 本会に運営委員会及び機関誌編集委員会を置く。
2 委員会に関する事項は、別に定める。

(総 会)

第7条 会長は、毎年一回総会を招集する。
2 会場は、加盟館の輪番とする。

第8条 会長館は、協議事項（議題及び承合事項）をとりまとめ、審議運行の手続きを計る。

第9条 総会の票決権は、一館一票とし議決は出席館の過半数の賛成を要する。

(会 計)

第10条 本会の経費は、会費その他の収入をもって当てる。

2 会員の会費は、年額5,000円とする。

第11条 本会の会計事務を監査するため、監事を置く。

2 総会において監事館を選出し、その監事館の図書館長が監事となる。

3 監事の任期は2年とする。但し、重任を妨げない。

第12条 本会の予算は、毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受けたのち、次の総会において承認を得るものとする。

第13条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(事務局)

第14条 会長館に、本会の事務局を置く。

2 事務局に、事務局長及び職員を置く。

3 会長館の事務部長、又はこれに準ずる者が事務局長となる。

(会則の変更)

第15条 この会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

(附 則)

本会則は、昭和25年5月1日から施行する。

(附 則)

この改正は、昭和50年7月23日より施行する。

東海地区大学図書館協議会

運営委員会規程

第1条 運営委員会は、本会の運営に関する事項を審議する。

第2条 運営委員会の構成は、国立大3、公立大3、私立大4、(短大1を含む)とする。

第3条 運営委員は、総会において選出する。

2 運営委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 前項の任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なお、その任にあるものとする。

第4条 運営委員会に、委員長をおく。

2 運営委員長は、会長がこれに当たる。

3 運営委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

第5条 運営委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

第6条 運営委員会の事務は、事務局内において行う。

附 則

この改正は平成12年7月19日から施行する。

東海地区大学図書館協議会

機関誌編集委員会規程

1 機関誌の発行について、編集委員会を設ける。

2 編集委員は、会長の指名による。

3 編集委員会に、委員長を置く。

4 編集委員長は、会長がこれにあたる。

5 編集委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

6 編集委員会の事務は、事務局内において行う。

東海地区大学図書館協議会

研修企画小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)の研修に関し、必要な

事項を審議するため、運営委員会の下に研修企画小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 協議会が行う研修の企画に関すること

二 その他研修に関し、必要な事項

(小委員会の構成)

第3 小委員会は、次に掲げる委員館をもって構成する。

一 協議会会長館

二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館

三 研修会会場館

2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会

ホームページ小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)のホームページ(以下「ホームページ」という。)に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下にホームページ小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項等)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 ホームページの運用・管理に関すること。

二 ホームページの企画・編集に関すること。

三 その他ホームページに関し、必要な事項。

(小委員会の構成)

第3 小委員会は次に掲げる委員館をもって構成する。

- 一 協議会会長館
 - 二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館
- 2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会ホームページ による情報発信に関わる申し合わせ

平成12年10月6日
運営委員会

1 情報発信の範囲

ホームページを通じて発信する情報は、次の各号に該当するものとする。

- ①協議会事業に関する情報
- ②協議会加盟館に関する情報
- ③その他ホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）が必要と認めた情報

2 情報発信できる者の範囲

ホームページを通じて情報発信できる者は協議会加盟館とする。

3 情報発信の手続き

- ①ホームページを通じて情報発信しようとする者は、協議会事務局宛にHTML形式の文書をメールで送付するものとする。
- ②加盟館から送付された文書の内容は原則として変更しない。
- ③ホームページに掲載する文書の登録及び削除の決定は、小委員会が行う。但し、疑義があるときは、小委員会は運営委員会委員長と協議する。
- ④ホームページを通じて情報公開している者で、公開する情報の変更又は停止等の事由が生じた時は、速やかに協議会事務局に連絡する。
- ⑤小委員会は公開されたホームページの情報が不相当と判断した場合は、そのファイルを削

除し、リンクを切断することができるものとする。

4 ホームページ

当分の間、ホームページは名古屋大学附属図書館内のサーバーに置く。

表彰規程

第1条 東海地区大学図書館協議会会則第4条第5号に基づき加盟館の職員に対して行う表彰はこの規程の定めるところによる。

第2条 毎年総会の前日までに通算20年図書館に在職する者。

第3条 この規程による表彰は加盟館長の推薦により総会において行う。

第4条 表彰者には記念品及び感謝状を贈呈する。

第5条 この規程の改正は総会の議決によって行う。

附 則

この規程は、昭和44年10月29日から実施する。

表彰者推薦に関する申合せ

(昭和53年9月4日)

東海地区大学図書館協議会の加盟館に在職する者のうち、つぎの各項のいずれかに該当する者を推薦することとする。

- (1) 毎年総会の前日までに通算20年以上加盟館に在職する者。
- (2) 毎年総会の前日までに通算25年以上図書館に在職し、かつ3年以上加盟館に在職する者。なお、(1)、(2)のいずれについても事務補佐員としての在職期間も加算するものとする。

総会当番館一覧

東海地区大学図書館協議会 総会当番館一覧

回	年月	館名	県別	回	年月	館名	県別
1	昭和 25. 6	名古屋大学	愛知	36	57. 9	名古屋女子大学	愛知
2	26. 6	金城学院大学	〃	37	58.10	静岡薬科大学	静岡
3	26.11	三重大学	三重	38	59. 9	南山大学	愛知
4	27. 5	愛知学芸大学	愛知	39	60.10	豊橋技術科学大学	〃
5	27.10	名古屋工業大学	〃	40	61. 6	中京大学	〃
6	28. 5	三重県立大学	三重	41	62. 6	愛知県立大学	〃
7	28. 8	名古屋市立大学	愛知	42	63. 6	愛知学院大学	〃
8	29.10	静岡大学	静岡	43	平成 元. 6	愛知教育大学	〃
9	30. 9	岐阜大学	岐阜	44	2. 6	愛知大学	〃
10	31. 5	愛知大学	愛知	45	3. 7	静岡県立大学	静岡
11	32.10	日本大学(三島)	静岡	46	4. 6	中部大学	愛知
12	33. 6	名城大学	愛知	47	5. 6	岐阜大学	岐阜
13	34. 9	岐阜薬科大学	岐阜	48	6. 7	名古屋学院大学	愛知
14	35.11	名古屋大学	愛知	49	7. 6	岐阜薬科大学	岐阜
15	36.11	南山大学	〃	50	8. 7	愛知大学	愛知
16	37. 6	岐阜県立医科大学	岐阜	51	9. 7	浜松医科大学	静岡
17	38. 6	名古屋工業大学	愛知	52	10. 7	日本福祉大学	愛知
18	39.10	愛知県立大学	〃	53	11. 7	愛知県立看護大学	〃
19	40.10	日本福祉大学	〃	54	12. 7	愛知工業大学	〃
20	41.10	中京大学	〃	55	13. 7	三重大学	三重
21	42.11	岐阜薬科大学	岐阜	56	14. 7	金城学院大学	愛知
22	43.11	愛知学院大学	愛知	57	15. 6	岐阜県立看護大学	岐阜
23	44.10	三重大学	三重	58	16. 7	南山大学	愛知
24	45. 9	同朋大学	愛知	59	17. 7	名古屋工業大学	〃
25	46.10	名古屋市立大学	〃	60	18. 7	名城大学	〃
26	47.10	中部工業大学	〃	61	19. 8	愛知県立芸術大学	〃
27	48.10	愛知教育大学	〃	62	20. 8	愛知淑徳大学	〃
28	49.10	大同工業大学	〃	63	21. 8	名古屋大学	〃
29	50. 7	愛知県立芸術大学	〃	64	22. 8	名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	〃
30	51. 6	市邨学園女子短期大学	〃	65	23. 8	名古屋市立大学	〃
31	52. 6	静岡大学	静岡	66	24. 8	中京大学	〃
32	53. 9	愛知工業大学	愛知	67	25 予定	静岡大学	静岡
33	54. 9	静岡女子大学	静岡	68	26 予定	中部大学	愛知
34	55. 9	名古屋学院大学	愛知	69	27 予定	愛知県立大学	〃
35	56.10	浜松医科大学	静岡	70	28 予定	名古屋学院大学	〃

国立→私立→公立→私立の順による

加盟館一覽

東海地区大学図書館協議会加盟館一覽

平成 24 年 12 月 1 日現在

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
(88)						
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 岐阜県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (14)						
朝日大学図書館	学校法人 朝日大学	明坂 年隆	〒 501-0296	瑞穂市穂積 1851-1	(058)329-1051	(058)329-0021
岐阜大学図書館	国立大学法人	小見山 章	〒 501-1193	岐阜市柳戸 1-1	(058)293-2184	(058)293-2194
岐阜医療科学大学 図書館	学校法人 神野学園	阿部 順子	〒 501-3892	関門市平賀字長峰 795-1	(0575)22-9401	(0575)46-9570
岐阜経済大学図書館	学校法人 岐阜経済大学	佐藤 俊幸	〒 503-8550	大垣市北方町 5-50	(0584)77-3527	(0584)77-3528
岐阜県立看護大学 図書館	公立大学法人 岐阜県立看護大学	服部 律子	〒 501-6295	羽島市江吉良町 3047-1	(058)397-2304	(058)397-2304
岐阜市立女子短期大学 附属図書館		瀬尾 幸市	〒 501-0192	岐阜市一日市場北町 7-1	(058)296-3123	(058)296-3130
岐阜聖徳学園大学 図書館	学校法人 聖徳学園	中島 利郎	〒 501-6194	岐阜市柳津町高桑西 1-1	(058)279-6416	(058)279-1242
岐阜女子大学図書館	学校法人 杉山女子学園	下野 洋	〒 501-2592	岐阜市太郎丸 80	(058)214-9317	(058)229-2222
岐阜保健短期大学 図書館	学校法人 豊田学園	熊崎 百代	〒 500-8281	岐阜市東鶉 2-92	(058)274-5001	(058)274-5260
岐阜薬科大学附属 図書館		稲垣 直樹	〒 502-8585	岐阜市三田洞東 5 丁目 6-1	(058)237-3931	(058)237-3631
情報科学芸術大学院 大学附属図書館		小林 昌廣	〒 503-0014	大垣市領家町 3-95	(0584)75-6803	(0584)75-6803
中京学院大学 図書メディアセンター	学校法人 安達学園	古谷 昭雄	〒 509-9195	中津川市千旦林 1-104	(0573)66-3121 (代表)	(0573)62-0325
中部学院大学 附属図書館	学校法人 岐阜済美学院	正村 静子	〒 501-3993	関市桐ヶ丘 2 丁目 1 番地	(0575)24-2243	(0575)24-2434
東海学院大学・東海学 院大学短期大学部附属 図書館	学校法人 神谷学園	神谷 和孝	〒 504-8511	各務原市那加桐野町 5-68	(058)389-2969	(058)371-9851
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 静岡県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (14)						
静岡大学附属図書館	国立大学法人	加藤 憲二	〒 422-8529	静岡市駿河区大谷 836	(054)238-4474	(054)238-5408
静岡県立大学附属 図書館	静岡県公立大 学法人	野口 博司	〒 422-8526	静岡市駿河区谷田 52-1	(054)264-5801	(054)264-5899
静岡県立大学短期大学 部附属図書館	静岡県公立大 学法人	有泉 祐吾	〒 422-8021	静岡市駿河区小鹿 2-2-1	(054)202-2617	(054)202-2620
静岡産業大学図書館	学校法人 新静岡学園	岩崎 功	〒 438-0043	磐田市大原 1572-1	(0538)36-8844	(0538)36-3580
静岡文化芸術大学 図書館・情報センター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	黒田 宏治	〒 430-8533	浜松市中区中央二丁目 1 番 1 号	(053)457-6124	(053)457-6125
静岡理工科大学附属 図書館	学校法人 静岡理工科大学	田中 源次郎	〒 437-8555	袋井市豊沢 2200-2	(0538)45-0231	(0538)45-0230
聖隷クリストファー大学 図書館	学校法人 聖隷学園	平野 美津子	〒 433-8558	浜松市北区三方原町 3453	(053)439-1416	(053)414-1146
東海大学付属図書館 清水図書館	学校法人 東海大学	川崎 一平	〒 424-8610	静岡市清水区折戸 3-20-1	(054)334-0414	(054)334-0862

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
東海大学付属図書館 沼津図書館	学校法人 東海大学	野須 潔	〒410-0395	沼津市西野317	(055)968-1114	(055)968-1153
東海大学短期大学部 図書館	学校法人 東海大学	坂本 雅子	〒420-8511	静岡市葵区宮前町101	(054)261-9527	(054)261-6865
常葉学園大学附属 図書館	学校法人 常葉学園	天野 忍	〒420-0911	静岡市葵区瀬名1-22-1	(054)261-4499	(054)263-1164
日本大学国際関係学部 図書館	学校法人 日本大学	田中 徳一	〒411-8555	三島市文教町2丁目31-145	(055)980-0806	(055)988-7875
浜松大学附属図書館	学校法人 常葉学園	竹内 修二	〒431-2102	浜松市北区都田町1230番地	(053)428-3613	(053)428-3901
浜松医科大学附属 図書館	国立大学法人	中原 大一郎	〒431-3192	浜松市東区半田山一丁目20-1	(053)435-2169	(053)435-5140

愛知県 (50)

愛知大学図書館	学校法人 愛知大学	土橋 喜	〒453-8777	名古屋市市中村区平池町4丁目60番6	(052)564-6115	(052)564-6215
愛知医科大学医学 情報センター(図書館)	学校法人 愛知医科大学	菅屋 潤壹	〒480-1195	長久手市岩作雁又1-1	(0561)62-3311	(0561)62-3348
愛知学院大学図書館 情報センター	学校法人 愛知学院	寶多 國弘	〒470-0195	日進市岩崎町阿良池12	(0561)73-1111 (代表)	(0561)73-7810
愛知学泉大学図書館	学校法人 安城学園	今枝 辰博	〒471-8532	豊田市大池町汐取1	(0565)35-7097	(0565)35-1003
愛知教育大学附属 図書館	国立大学法人	岩崎 公弥	〒448-8542	刈谷市井ヶ谷町広沢1	(0566)26-2683	(0566)26-2680
愛知県立大学学術情報 センター図書館	愛知県公立大 学法人	大塚 英二	〒480-1198	長久手市茨ヶ廻間1522-3	(0561)76-8841	(0561)64-1104
愛知県立芸術大学芸術 情報センター図書館	愛知県公立大 学法人	長谷 高史	〒480-1194	長久手市岩作三ヶ峯1-114	(0561)76-2963	(0561)62-0244
愛知工科大学附属 図書館	学校法人 電波学園	橋本 孝明	〒443-0047	蒲郡市西迫町馬乗50-2	(0533)68-1135	(0533)68-0352
愛知工業大学附属 図書館	学校法人 名古屋電気学園	井 研治	〒470-0392	豊田市八草町八千草1247	(0565)48-8121	(0565)48-2908
愛知産業大学・短期 大学図書館	学校法人 愛知産業大学	須賀 周平	〒444-0005	岡崎市岡町字原山12-5	(0564)48-4591	(0564)48-5113
愛知淑徳大学図書館	学校法人 愛知淑徳学園	垂井 洋蔵	〒480-1197	長久手市片平9番地	(0561)62-4111 (代表)	(0561)64-0310
愛知東邦大学図書館	学校法人 東邦学園	浅生 卯一	〒465-8515	名古屋市名東区平和ヶ丘3-11	(052)782-1243	(052)781-0931
愛知文教大学附属 図書館	学校法人 足立学園	黒田 彰子	〒485-8565	小牧市大字大草字年上坂5969-3	(0568)78-2211	(0568)78-2240
愛知みずほ大学附属 図書館	学校法人 瀬木学園	加藤 象二郎	〒470-0394	豊田市平戸橋町波岩86-1	(0565)43-0116	(0565)46-5220
名古屋短期大学図書館	学校法人 桜花学園	井上 文人	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
桜花学園大学図書館	学校法人 桜花学園	近藤 正春	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
金城学院大学図書館	学校法人 金城学院	二杉 孝司	〒463-8521	名古屋市守山区大森2-1723	(052)798-0180	(052)768-1066
至学館大学附属図書館	学校法人 至学館	松岡 孝博	〒474-8651	大府市横根町名高山55	(0562)46-1239	(0562)46-3860
自然科学研究機構 岡崎情報図書館	大学共同利用 機関法人	大峯 巖	〒444-8585	岡崎市明大寺町西郷中38	(0564)55-7191	(0564)55-7199
修文大学附属図書館	学校法人 一宮女学園	池野 武行	〒491-0938	一宮市日光町6番地	(0586)45-2101	(0586)45-4410
椋山女学園大学図書館	学校法人 椋山女学園	澤田 善次郎	〒464-8662	名古屋市千種区星が丘元町17-3	(052)781-6452	(052)781-3094

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
星城大学図書館	学校法人 名古屋石田学園	加藤 省三	〒476-8588	東海市富貴ノ台2-172	(052)601-6000 (代表)	(052)601-6010
大同大学図書館	学校法人 大同学園	服部 文彦	〒457-8530	名古屋市南区滝春町10-3	(052)612-6873	(052)612-6108
中京大学図書館	学校法人 梅村学園	棚橋 純一	〒466-8666	名古屋市昭和区八事本町101-2	(052)835-7157	(052)835-1249
中部大学附属 三浦記念図書館	学校法人 中部大学	内藤 和彦	〒487-8501	春日井市松本町1200	(0568)51-4317	(0568)52-1510
同朋学園大学部附属 図書館	学校法人 同朋学園	服部 仁	〒453-8540	名古屋市市中村区稲葉地町7-1	(052)411-1951	(052)411-1120
東海学園大学図書館	学校法人 東海学園	津田 早苗	〒468-8514	名古屋市天白区中平2丁目901	(052)801-1528	(052)804-1192
豊田工業大学 総合情報センター	学校法人 トヨタ学園	大石 泰丈	〒468-8511	名古屋市天白区久方2-12-1	(052)809-1743	(052)809-1744
豊田工業高等専門学校 図書館	独立行政法人 国立高等専門学校機構	長岡 美晴	〒471-8525	豊田市栄生町2-1	(0565)36-5904	(0565)36-5920
豊橋技術科学大学附属 図書館	国立大学法人	角田 範義	〒441-8580	豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1	(0532)44-6562	(0532)44-6566
豊橋創造大学附属 図書館	学校法人 藤ノ花学園	青嶋 由美子	〒440-8511	豊橋市牛川町松下20-1	(050)2017-2105	(050)2017-2115
名古屋大学附属図書館	国立大学法人	佐野 充	〒464-8601	名古屋市千種区不老町	(052)789-3666	(052)789-3693
名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学図書館	学校法人 中西学園	塩見 治人	〒470-0188	日進市岩崎町竹ノ山57	(0561)75-1726	(0561)75-1727
名古屋学院大学 学術情報センター	学校法人 名古屋学院大学	岸田 賢次	〒456-8612	名古屋市熱田区熱田西町1-25	(052)678-4092	(052)682-6826
名古屋経済大学・ 名古屋経済大学短期大 学部図書館	学校法人 市邨学園	樋口 徹	〒484-0000	犬山市字樋池61-22	(0568)67-3798	(0568)67-9321
名古屋芸術大学附属 図書館	学校法人 名古屋自由学院	溝口 和夫	〒481-8503	北名古屋市熊之庄古井281	(0568)26-3121	(0568)26-3122
名古屋工業大学附属 図書館	国立大学法人	松尾 啓志	〒466-8555	名古屋市昭和区御器所町	(052)735-5098	(052)735-5102
名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大学図書館	学校法人 菊武学園	加藤 哲男	〒488-8711	尾張旭市新居町山の田3255-5	(0561)55-3081	(0561)55-5985
名古屋商科大学 中央情報センター	学校法人 栗本学園	浅野 一明	〒470-0193	日進市米野木町三ヶ峯4-4	(0561)73-2111 (代表)	(0561)74-0341
名古屋女子大学 学術情報センター	学校法人 越原学園	越原 洋二郎	〒467-8610	名古屋市瑞穂区汐路町3-40	(052)852-9768	(052)852-1830
名古屋市立大学 総合情報センター	公立大学法人 名古屋市立大学	三澤 哲也	〒467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	(052)872-5795	(052)872-5781
名古屋造形大学図書館	学校法人 同朋学園	大橋 基博	〒485-8563	小牧市大字大草字年上坂6004	(0568)79-1255	(0568)47-0361
名古屋文理大学 図書情報センター	学校法人 滝川学園	山住 富也	〒492-8520	稲沢市稲沢町前田365	(0587)23-2400 (代表)	(0587)21-2844
名古屋柳城短期大学 図書館	学校法人 柳城学院	尾上 明子	〒466-0034	名古屋市昭和区明月町2-54	(052)841-2635	(052)841-2697
南山大学図書館	学校法人 南山学園	森山 幹弘	〒466-8673	名古屋市昭和区山里町18	(052)832-3163	(052)833-6986
日本赤十字豊田看護 大学図書館	学校法人 日本赤十字学園	島井 哲志	〒471-8565	豊田市白山町七曲12-33	(0565)36-5119	(0565)37-7897
日本福祉大学付属 図書館	学校法人 日本福祉大学	二木 立	〒470-3295	知多郡美浜町大字奥田字会下前35-6	(0569)87-2325	(0569)87-2795

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
人間環境大学附属図書館	学校法人 岡崎学園	神谷 昇司	〒444-3505	岡崎市本宿町字上三本松 6-2	(0564)48-7815	(0564)48-7815
藤田学園医学・保健衛生学図書館	学校法人 藤田学園	宮地 栄一	〒470-1192	豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98	(0562)93-2420	(0562)93-2649
名城大学附属図書館	学校法人 名城大学	森川 章	〒468-8502	名古屋市天白区塩釜口 1-501	(052)832-1151 (代表)	(052)833-6046

■ 三重県 ■ (10)

皇學館大学附属図書館	学校法人 皇學館	高倉 一紀	〒516-8555	伊勢市神田久志本町 1704	(0596)22-6322	(0596)22-6329
鈴鹿医療科学大学附属図書館	学校法人 鈴鹿医療科学大学	林 顕效	〒510-0293	鈴鹿市岸岡町 1001-1	(059)383-8991	(059)383-9915
鈴鹿国際大学附属図書館	学校法人 享栄学園	富田 寿代	〒510-0298	鈴鹿市郡山町 663-222	(059)372-3950	(059)372-2827
鈴鹿短期大学図書館	学校法人 享栄学園	福永 峰子	〒510-0598	鈴鹿市郡山町 663-222	(059)372-3950	(059)372-3903
三重大学附属図書館	国立大学法人	滝 和郎	〒514-8507	津市栗真町屋町 1577	(059)231-9083	(059)231-9086
三重県立看護大学附属図書館	公立大学法人 三重県立看護大学	齋藤 真	〒514-0116	津市夢が丘 1-1-1	(059)233-5608	(059)233-5668
津市立三重短期大学附属図書館		雨宮 照雄	〒514-0112	津市一身田中野 157	(059)232-2341	(059)232-9647
三重中京大学図書館	学校法人 梅村学園	相原 正	〒515-8511	松阪市久保町 1846	(0598)29-1122	(0598)29-4986
四日市大学情報センター	学校法人 暁学園	岩崎 恭典	〒512-8512	四日市市萱生町 1200	(059)365-6712	(059)365-6619
四日市看護医療大学図書館	学校法人 暁学園	ダニエル・カーク	〒512-8045	四日市市萱生町 1200	(059)340-0705	(059)361-1401

役員館一覧

東海地区大学図書館協議会役員館一覧（平成10年度～平成25年度）

年度	総会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画小 委員会	ホームページ 小委員会
	国立→私立 →公立の 順による	名古屋大 と、国立 →私立→ 公立の順 による	総会で 選出	総会で選出 会長 国立3、公立3、私立4（短大1を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長 の指名	総会で選出 監事館の図書館長 が監事となる	運営委員会の下 に設置 会長館 国立、公立、私立 の運営委員館 から各1館 研修会場館	運営委員会の下 に設置 会長館 国立、公立、私立 の運営委員館 から各1館
平成 10 年度	日本福祉 大学	名古屋 大学と、 岐阜経済 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 名古屋市立看護短期大学部 /三重短期大学 愛知工業大学 岐阜女子大学 金城学院大学 名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学		
平成 11 年度	愛知県立 看護大学	名古屋 大学 岐阜女子 大学						
平成 12 年度	愛知工業 大学	愛知教育 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	三重大学 名古屋工業大学 静岡大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 三重短期大学 相山女子学園大学 大同工業大学 岐阜聖徳学園大学 名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 相山女子学園大学 研修会場館	
平成 13 年度	三重大学	大同工業 大学 名古屋 大学						
平成 14 年度	金城学院 大学	名古屋 大学 名古屋 市立大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 豊橋技術科学大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 相山女子学園大学 金城学院大学 皇學館大学 愛知女子短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立看護大学 金城学院大学 研修会場館	
平成 15 年度	岐阜県立 看護大学	名古屋 大学 相山女子 学園大学						
平成 16 年度	南山大学	名古屋 大学 岐阜大学	名古屋 大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学/静岡県立大学短期大学部 (H17) 南山大学 中京大学 東海女子大学 名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 金城学院大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 中京大学 研修会場館	
平成 17 年度	名古屋工 業大学	中京大学 名古屋 大学						
平成 18 年度	名城大学	岐阜県立 看護大学 名古屋 大学	名古屋 大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学静岡県立大学短期大学部 (H18) / 三重短期大学 (H19) 名城大学 中部大学 中京女子大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 南山大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会場館	名古屋大学 豊橋技術科学 大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成 19 年度	愛知県立 芸術大学	名古屋 大学 中部大学						
平成 20 年度	愛知淑徳 大学	浜松医科 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 愛知県立看護大学 (H20) / 愛知県立大学 (H21) 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 愛知淑徳大学 同期学園大学 豊田工業大学 鈴鹿短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	会長館 浜松医科大学 名古屋市立大学 同期学園大学	会長館 三重大学 名古屋市立大学 豊田工業大学
平成 21 年度	名古屋 大学	同期学園 大学 名古屋 大学						
平成 22 年度	名古屋外 語大学・ 名古屋 学芸大学	静岡県立 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 豊橋創造大学 名古屋学院大学 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 愛知淑徳大学	名古屋大学 (会長館) 静岡大学 名古屋市立大学 豊橋創造大学 静岡県立大学 (会場館)	名古屋大学 (会長館) 豊橋技術科学 大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成 23 年度	名古屋 市立大学	豊橋創造 大学 名古屋 大学						
平成 24 年度	中京大学	三重大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部 中京大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋柳城短期大学図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋学芸大学	名古屋大学 (会長館) 岐阜大学 愛知県立大学 名古屋経済大学 三重大学 (会場館)	名古屋大学 (会長館) 浜松医科大学 名古屋市立大学 名古屋芸術大学
平成 25 年度	静岡大学	名古屋 経済大学 名古屋 大学						

研修会一覧

東海地区大学図書館協議会研修会一覧（平成元年度～平成23年度）

年度	年月日	会場	演題	講師	所属
元	元.12.5	名城大学	学術情報サービスの展開と大学図書館	門條 司	化学情報協会
			アダム・スミスの蔵書をめぐって	水田 洋	名城大学
	2.1.31	名古屋大学	大学図書館の未来像	丸山昭二郎	鶴見大学
2	2.11.29	名古屋大学	Collection building について	川原 和子	三重大学
			大学図書館とニュー・メディア	橋爪 宏達	学術情報センター
	3.1.30	大同工業大学	『経済学文献季報』のデータベース化について－KEIS から KEIS II へ 私の日本の古典文献とのつきあい	山内 隆文 朝倉 治彦	名古屋学院大学 四日市大学
3	3.11.8	名古屋学院大	ドイツ及び英国の図書館事情	牧村 正史	名古屋大学
			江戸時代の出版	長島 弘明	名古屋大学
	4.1.17	愛知県図書館	目録システムにおけるハイパーテキストの適用可能性 新図書館概要説明及び見学	石塚 英弘 鈴木 康之	図書館情報大学 愛知県図書館
4	4.10.21	南山大学	慶應義塾大学の新しい試み－マルチメディアの統合－	原田 悟	慶應義塾大学
			図書館の施設計画に関連して	加藤 彰一	名古屋大学
	5.3.19	名古屋大学	カリフォルニア大学バークレー校の図書館システム 電子情報サービスの新しい展開	棚橋 章 寺村 謙一	名古屋大学 丸善株
5	6.1.26	施設見学会：けいはんなインフォザール			
	6.3.23	愛知医科大学	シーボルトと中京の学者たち 大学図書館におけるコレクション形成・管理の意義と問題点	武内 博 三浦 逸雄	東京学芸大学 東京大学
6	6.12.6	愛知学院大学	アメリカ図書館最新事情	渡辺 和代	名古屋アメリカンセンター
			地域・館種を越えた図書館サービス－すべての図書館をすべての利用者に－	川瀬 正幸 雨森 弘行	名古屋大学 三重県立図書館
	7.2.22	施設見学会：三重県図書館			
7	7.10.27	名古屋大学	鯨と捕鯨の文化史	森田 勝昭	甲南女子短期大学部
			研究図書館としての電子図書館の事例－機能と運営－	渡辺 博	奈良先端科学技術大学院大学
	7.12.7	愛知工業大学	シンポジウム：利用者教育の在り方－方法と問題点－	光斎 重治 高橋 一郎 四谷あさみ 堀 茂豊 金子 豊	中部大学 愛知県立大学 愛知淑徳大学 名古屋大学 名古屋大学
8	8.10.24	名古屋大学	インターネット、イントラネットを前提とした図書館情報サービスの将来	後藤 邦夫	南山大学
			電子図書館の諸相：US Berkeley Digital Library Project と Ariadne97	谷口 敏夫	光華女子大学
	8.12.4	愛知淑徳大学	シンポジウム：NDC 新版9版について	石山 洋 万波 涼子 中井えり子 酒井 信	東海大学 名古屋市立大学 名古屋大学 名城大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
9	9.10.30	名古屋大学	英国大学図書館における電子情報サービスの進展	尾城 孝一	東京工業大学
			フランス国立図書館 BNF	篠田知和基	名古屋大学
9	9.12.10	朝日大学	講演 歌うコンピュータ・描くコンピュータ－マルチメディア時代への布石－	板谷 雄二	朝日大学
			フォーラム：マルチメディアと電子図書館－図書館機能におけるホームページ－	津田 明美 林 哲也 鈴木 康生 三浦 基	愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学 南山大学
10	10.12.5	名古屋大学	テーマ：電子ジャーナルの”いま”と”こんご” 講演 デジタルメディアの現状と今後	逸村 裕	愛知淑徳大学
			電子ジャーナルの事例報告 EES, Science Direct FirstSearch, FirstSearch ECO Journals@ovid, HighWire Press	エルゼビア 紀伊國屋書店 ユサコ	
10	10.12.16	岐阜経済大学	テーマ：大学図書館における電子情報サービスの実際 ネット時代の教育・研究環境と図書館の活用	松島 桂樹	岐阜経済大学
			電子情報サービスの事例報告	安田多香子 野村 千里 夏目弥生子	愛知県立大学 南山大学 名古屋大学
11	11.11.2	名古屋大学	テーマ：著作権法と大学図書館 大学図書館にかかわる著作権問題	石倉 賢一	千葉大学
			電子図書館サービスと著作権	山本 順一	図書館情報大学
11	11.12.7	岐阜女子大学	テーマ：大学図書館と学生用図書 大学教育改革と学生用図書	柴田 正美	三重大学
			事例報告	江口 愛子 吉根佐和子 福井 司郎	浜松医科大学 名古屋市立大学 中京大学
12	13.1.18	愛知教育大学	テーマ：大学図書館における相互協力 大学図書館における相互協力	石井 啓豊	図書館情報大学
			事例報告	平井 芳美 濱口 幾子 加藤 直美	名古屋大学 愛知県立看護大学 愛知工業大学
12	13.3.9	名古屋大学	テーマ：大学図書館の管理・運営 大学図書館の管理・運営	長谷川豊祐	鶴見大学
			コンソーシアムを視野においた大学図書館の運営	松下 鈞	国立音楽大学
13	13.12.20	大同工業大学	テーマ：古文書の整理と保存：電子メディア変換（画像） による利用について 講演 古文書の整理と保存	秋山 晶則	名古屋大学
			事例報告 徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ－21世紀地域ネットワークへの試み－	岡田 恵子	徳島大学
13	14.1.24	名古屋大学	テーマ：図書館の電子化と所蔵資料を核とした地域との 連携 デジタル時代の図書館	逸村 裕	名古屋大学
			所蔵資料の高度活用を目指して－地域の博物館・図書館等の連携－	種田 祐司	名古屋市博物館
14	14.12.13	名古屋大学	テーマ：学術情報の電子化を考える 講演 学術情報の電子化が意味するもの－研究者の立場から 考える－	倉田 敬子	慶應義塾大学
			事例報告 名古屋大学における電子ジャーナルの現状について	澄川千賀子・ 川添 真澄	名古屋大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
14	15. 3. 4	名古屋市立大学	テーマ：現代の大学図書館と著作権 講演 現代の大学図書館と著作権	土屋 俊	千葉大学
15	15.12.15	名古屋大学	テーマ：図書館のサービス・マネジメントと評価 講演 図書館のサービス・マネジメント：顧客の選好と評価	永田 治樹	筑波大学
	16. 2.19	椋山女学園大学	テーマ：SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について 講演 SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について	安達 淳	国立情報学研究所
16	16.12.17	名古屋大学	テーマ：電子的学術情報利用の進展と今後の展望 事例報告 名古屋大学の電子図書館化計画－機関リポジトリ構築計画を中心にして－ 医学系図書館の電子ジャーナル状況と日本医学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの現状 電子ジャーナルの利点と課題－サイエンス・ダイレクトを例に－	郡司 久 坪内 政義 高橋 昭治	名古屋大学 愛知医科大学 エルゼビアジャパン
	17. 3. 3	ぱるるる プラザ GIFU	テーマ：大学図書館におけるアウトソーシング 事例報告 日本福祉大学付属図書館におけるアウトソーシング アウトソーシングを活用した大学図書館運営－立命館大学における現状と課題－ アウトソーサーからみたアウトソーシング	岡崎 佳子 田中 康雄 図書館流通センター	日本福祉大学 立命館大学
17	17.12. 2	中京大学	テーマ：図書館情報リテラシー指導の現状－各大学の事例報告－ 基調講演 大学図書館と情報リテラシー	逸村 裕	名古屋大学
			事例報告 名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育 図書館情報リテラシー教育－小さな図書館、小さな学部での試み－ 中京大学図書館 情報リテラシー教育の現状 ニッチ戦略（隙間産業）で、大学に貢献できる情報リテラシー教育支援を目指す－三重大学附属図書館の取組－ 岐阜県立看護大学図書館における利用教育 大学ポータルを中心とした名古屋学院大学の情報環境	次良丸 章 原 泰子 春日井 正人 杉田 いづみ 井上 貴之 中田 晴美	名古屋大学 名古屋市立大学 中京大学 三重大学 岐阜県立看護大学 名古屋学院大学
	18. 1.30	名古屋大学	テーマ：利用者サイドに立つ図書館サービス 講演 北米大学図書館における利用者中心の図書館サービス ----- 利用者の利用行動に基づいた図書館サービス	シャロン・ドマイヤー 越塚 美加	マサチューセッツ大学 学習院女子大学
18	19. 1.12	岐阜県図書館	テーマ：大学図書館の地域連携 事例報告 相互利用協定と愛知県内図書館の ILL 定期便設置実証実験 静岡県内の大学図書館における連携について 岐阜県における公共図書館との連携図書館 東海目録（TOMcat）：病院図書室と大学図書館の連携 図書館の教育支援、地域支援：豊田高専の英語多読を通して	村上 昇平 大石 博昭 木村 晴茂 坪内 政義 西澤 一	愛知県図書館 静岡大学 岐阜大学 愛知医科大学 豊田工業高等専門学校
	19. 3. 7	名古屋大学	テーマ：Web2.0 時代の図書館サービス 基調講演 Web2.0 時代の図書館 ----- 講演 図書館利用者の情報探索活動に関する実証的研究 Web2.0 時代の新たな図書館サービスの展開	岡本 真 寺井 仁 林 賢紀	Academic Resource Guide 名古屋大学 農林水産省
19	19.11.28	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等）	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子	お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
19	19.11.28	名古屋大学	図書館情報リテラシー教育 ILL 大学図書館の最近の動向・海外事情	紅露 剛 万波 涼子 松林 正己	南山大学 名古屋市立大学 中部大学
	20. 3. 5	中部大学	テーマ：魅力ある大学図書館をめざして 講演 どこから拓く？ 大学図書館の可能性－学習支援の視点から どこから拓いた－お茶大図書館活性化のための5つの作戦	井上 真琴 茂出木 理子	同志社大学 お茶の水女子大学
20	20.12.22	アクトシティ松浜	テーマ：図書館と著作権 講演 図書館業務と著作権 映像資料の利用と著作権法について	南川 貴宣 三浦 正広	文化庁著作権課 国士舘大学
	21. 3. 4	西尾市岩瀬文庫	テーマ：学芸員の世界 岩瀬文庫見学 講演 学芸員の仕事 －内藤記念くすり博物館の世界－ 学芸員の仕事 －岩瀬文庫の世界－	野尻 佳与子 林 知左子	内藤記念くすり博物館 西尾市岩瀬文庫
21	21.12. 3	同朋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等） 情報リテラシー教育 ILL 大学図書館と広報	雨森 弘行 河谷 宗徳 粟野 容子 久田 睦美 榊原 佐知子 渡邊 敏之	前お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 愛知医科大学 名古屋造形大学
	22. 2.23 22. 3. 5 22. 3.10	名古屋大学	保存修復講演会・講習会 テーマ：図書資料の保存と修復 講演 紙資料の保存修復 講習会 修復実務講習会	金山 正子 岩田 起代子	元興寺文化財研究所 前名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館
22	22.12. 9	名古屋大学	テーマ：実践で役立つレファレンス・ツール ― 国立国会図書館提供ツールを中心に ― 講義1 講義2	兼松 芳之	国立国会図書館
	23. 3.16	静岡県男女画参事センターあざれあ	テーマ：電子書籍を中心とした資料のデジタル化の動向と図書館の今後 講演 変革期のデジタル化と図書館―国立国会図書館の動向を中心に― 電子書籍の急速な普及と大学図書館	中井 万知子 竹内 比呂也	国立国会図書館 関西館 千葉大学
23	23.12.15	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等） ILL プレゼンテーション入門 カナダの大学図書館事情	加藤 信哉 河谷 宗徳 堀 友美 万波 涼子 近田 政博 ゴードン・コールマン	名古屋大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋大学 静岡大学
	24. 3. 8	名古屋大学	テーマ：災害時における危機管理 事例報告 そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－ 私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心として	小陳 左和子 和知 剛	東北大学 郡山女子大学図書館

「東海地区大学図書館協議会誌」掲載記事の電子的公開，転載，学術機関リポジトリでの公開について

- ・著作権は著作者本人にあります。
- ・著作者本人が，ホームページ等で電子的公開，転載，あるいは学術機関リポジトリへ搭載する場合，著作者本人からの申請書等の提出は必要ありません。

(平成19年7月9日 東海地区大学図書館協議会運営委員会(第19-1回)決定)

東海地区大学図書館協議会誌 第57号(2012)

平成24年12月20日印刷

平成24年12月25日発行

編集・発行 東海地区大学図書館協議会事務局
名古屋市千種区不老町 名古屋大学附属図書館内
電話 052-789-3666

ホームページ <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/>

振込先 三菱東京UFJ銀行今池支店 普通預金 口座 1747229